

本書は製品とともに大切に保管してください

N8103-171/G171 RAIDコントローラ ユーザズガイド

まえがき

このたびは、本製品をお買い上げいただきまことにありがとうございます。

本書は、N8103-171/G171 RAID コントローラ（以降「RAID コントローラ」と呼ぶ）を正しく、安全に設置、使用するための手引きです。本 RAID コントローラを取り扱う前に必ずお読みください。また、本 RAID コントローラを使用する上でわからないこと、不具合が起きたときにもぜひご利用ください。本書は、必要な時にすぐに参照できるように必ずお手元に保管してください。

本 RAID コントローラを取り付ける本体装置の取り扱いについての説明は、本体装置のユーザズガイドを参照してください。また、本 RAID コントローラを取り扱う前に「使用上のご注意」を必ずお読みください。

- 製品をご使用になる前に必ず本書をお読みください。
本書は熟読の上、大切に保管してください。

商標について

Microsoft とそのロゴおよび、Windows、 Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

LSI Corporation、MegaRAID および MegaRAID CacheCade ソフトウェアは LSI 社の登録商標または商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の登録商標または商標です。

ESMPRO、EXPRESSBUILDER、Universal RAID Utility は、日本電気株式会社の登録商標です。

なお、本文には登録商標や商標に(TM)、(R)マークは記載しておりません。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については(4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。

このユーザーズガイドは、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようにしてください。
「使用上のご注意」を必ずお読みください。

使用上のご注意 ～必ずお読みください～

本 RAID コントローラを安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

安全に関わる表示について

本書では、安全にお使いいただくためにいろいろな絵表示をしています。表示を無視し、誤った取り扱いをすることによって生じる内容を次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告




人が死亡する、または重傷を負うおそれがあることを示します。



注意





火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあることを示します。

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味を持つものとして定義されています。




	注意の喚起	この記号は危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。	(例)  (感電注意)
	行為の禁止	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。	(例)  (分解禁止)
	行為の強制	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。	(例)  (プラグを抜け)

本書で使用する記号とその内容



注意の喚起

	特定しない一般的な注意・警告を示します。
	感電のおそれがあることを示します。
	高温による障害を負うおそれがあることを示します。
	発煙または発火のおそれがあることを示します。

行為の禁止

	特定しない一般的な禁止を示します。
	分解・修理しないでください。感電や火災のおそれがあります。
	ぬれた手で触らないでください。感電するおそれがあります。







行為の強制





	電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電のおそれがあります。
	特定しない一般的な使用者の行為を指示します。説明に従った操作をしてください。

安全上のご注意










本 RAID コントローラを安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んでご理解いただき、安全にご活用ください。記号の説明については巻頭の『安全にかかわる表示について』の説明をご覧ください。

<全般的な注意事項>






 警告	
	人命に関わる業務や高度な信頼性を必要とする業務には使用しない 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
 	煙や異臭・異音が生じたまま使用しない 万一、煙、異臭、異音などが生じた場合は、ただちに本体装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜いてください。その後、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災の原因となります。
 	針金や金属片を差し込まない 通気孔やカートリッジ挿入口から金属片や針金などの異物を差し込まないでください。感電するおそれがあります。




 注意	
  	装置内に水や異物を入れない 装置内に水などの液体、ピンやクリップなどの異物を入れないでください。火災や感電、故障の原因となります。もし入ってしまったときは、すぐに本体装置の電源をOFFにして電源コードをACコンセントから抜いてください。分解しないで販売店または保守サービス会社にご連絡してください。

<電源・電源コードに関する注意事項>


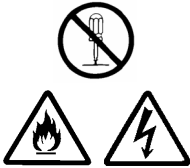

 注意	
	<p>電源がONのまま取り付け・取り外しをしない</p> <p>本体装置への取り付け・取り外しの際や、周辺機器との接続の際は必ず主電源に接続している電源コードをACコンセントから抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま取り付け・取り外しや接続をすると感電するおそれがあります。</p>
 	<p>破損したケーブルを使用しない</p> <p>ケーブルを接続する前にコネクタが破損していたり、コネクタピンが曲がっていたり、汚れたりしていないことを確認してください。破損や曲がっているコネクタおよび汚れたコネクタを使用するとショートにより火災を引き起こすおそれがあります。</p>
 	<p>ぬれた手で電源コードをもたない</p> <p>本製品の取り付け・取り外しの場合は、ぬれた手で本体装置の電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。</p>
  	<p>電源コードのケーブル部を持って引き抜かない</p> <p>本体装置の電源コードの抜き差しは、ケーブル部を持って引っ張らないでください。ケーブルが傷み、感電や火災の原因となります。</p>



<設置・移動・保管・接続に関する注意事項>

⚠ 注意	
  	<p>プラグを差し込んだままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない</p> <p>インタフェースケーブルの取り付け／取り外しは本体装置の電源コードをコンセントから抜いて行ってください。たとえ電源をOFFにしても電源コードを接続したままケーブルやコネクタに触ると感電したり、ショートによる火災を起こしたりすることがあります。</p>
 	<p>指定以外のインタフェースケーブルを使用しない</p> <p>インタフェースケーブルは、弊社が指定するものを使用し、接続する装置やコネクタを確認した上で接続してください。指定以外のケーブルを使用したり、接続先を誤ったりすると、ショートにより火災を起こすことがあります。</p> <p>また、インタフェースケーブルの取り扱いや接続について次の注意をお守りください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ケーブルを踏まない。 ■ ケーブルの上にものを載せない。 ■ ケーブルの接続がゆるんだまま使用しない。 ■ 破損したケーブルを使用しない。 ■ 破損したケーブルコネクタを使用しない。 ■ ネジ止めなどのロックを確実に行ってください。







⚠ 注意	
 	<p>腐食性ガスの存在する環境で使用または保管しない</p> <p>腐食性ガス（二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する環境に設置し、使用しないでください。</p> <p>また、ほこりや空気中に腐食を促進する成分（塩化ナトリウムや硫黄など）や導電性の金属などが含まれている環境へも設置しないでください。装置内部のプリント板が腐食し、故障および発煙・発火の原因となるおそれがあります。もしご使用の環境で上記の疑いがある場合は、販売店または保守サービス会社にご相談ください。</p>
	<p>高温注意</p> <p>本体装置の電源をOFFにした直後は、内蔵型の物理デバイスなどをはじめ装置内の部品が高温になっています。十分に冷めたことを確認してから取り付け/取り外しを行ってください。</p>

<お手入れに関する注意事項>

 警告	
	<p>自分で分解・修理・改造はしない</p> <p>本製品の分解や、修理・改造は絶対にしないでください。装置が正常に動作しなくなるばかりでなく、感電や火災の危険があります。</p>
	<p>プラグを差し込んだまま取り扱わない。</p> <p>お手入れは、本体装置の電源をOFFにして、電源コードをACコンセントから抜いてください。たとえ電源をOFFにしても、電源コードを接続したまま装置内の部品に触ると感電するおそれがあります。</p>

 注意	
	<p>中途半端に取り付けない</p> <p>DCケーブルやインタフェースケーブルは確実に取り付けてください。中途半端に取り付けると接触不良を起こし、発煙や発火の原因となるおそれがあります。</p>

<運用中の注意事項>

<div> 注意</div>	
<div></div>	<div>雷がなったら触らない 雷が鳴りだしたら、本製品内蔵の本体装置には、触れないでください。感電するおそれがあります。</div>
<div></div>	<div>ペットを近づけない 本製品が内蔵された本体装置にペットなどの生き物を近づけないでください。排泄物や体毛が装置内部に入って火災や感電の原因となります。</div>

取り扱い上のご注意 ～装置を正しく動作させるために～

本 RAID コントローラを使用するときに注意していただきたいことを次に示します。これらの注意を無視して、本 RAID コントローラを使用した場合、資産(データやその他の装置)が破壊されるおそれがありますので必ずお守りください。

- 本 RAID コントローラは Express5800 シリーズに Serial-Attached SCSI (SAS) 機器、および Serial ATA (SATA)機器を接続するための RAID コントローラです。他の目的では使用しないでください。
- 本 RAID コントローラは大変デリケートな電子装置です。本 RAID コントローラの取り扱いは端の部分を持ち、表面の部品やコネクタと接続する部分には触れないようにしてください。また、本 RAID コントローラを落としたり、ぶつけたりしないでください。
- 本 RAID コントローラには、同一規格の物理デバイス（ハードディスクドライブ等）を接続してください。
- 本 RAID コントローラに接続可能な本体装置、増設用 HDD ケージ、物理デバイスについては、お買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 本 RAID コントローラは、他の PCI ボード（RAID コントローラ等）の混在使用を制限している場合があります。本 RAID コントローラを他の PCI ボードと混在してご使用になる場合は、混在が可能かどうかお買い求めの販売店にご確認ください。
- 本 RAID コントローラが内蔵された本体装置のそばでは、携帯電話や PHS、ポケットベルの電源を OFF にしてください。電波による誤動作の原因となります。

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

取り扱い上のご注意 ～静電気対策について～

製品の取り付け／取り外しについて

1. 準備確認事項

- (1) 危険防止及び故障防止のため作業を行なう際には、本体装置の電源スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
但し、ホットスワップ(活栓挿抜)対象製品の取り付け／取り外し時の電源スイッチのOFFおよび電源プラグのコンセントからの取り外しは除きます。
- (2) 本製品は静電気に弱い電子部品で構成されています。製品の取り付け／取り外しの際には静電気による製品の故障を防止するため静電気対策用リストストラップなどの装着により静電気を除去してください。
また、リストストラップを使用する場合は、接地された箇所に接続して使用してください。
- (3) ケーブルの取り扱い
LANケーブル等のケーブルを接続する場合も床面との摩擦によって静電気が帯電することがあります。
帯電した状態で入出力機器に接続すると機器を破壊することがありますので接続する前には除電キット等を使用して除電することを推奨します。

注) 静電気除電キットについて

下記の静電気除電キットについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にご相談ください。

品名：LANケーブル除電治具




型名：SG001(東京下田工業(株)製)

本書について

本書は、Windows や Linux などのオペレーティングシステムやキーボード、マウスといった一般的な入出力装置などの基本的な取り扱いについて十分な知識を持ったユーザを対象として記載されています。

<本書の記号について>

本書の中には安全に関わる注意記号の他に次の3種類の記号を使用しています。それぞれの記号は次のような意味をもつものとして定義されています。

 重要	装置を取り扱う上で、守らなければいけないことや、特に注意すべき点を示します。
 チェック	装置を取り扱う上で、確認をしておく必要がある点を示します。
 ヒント	知っておくと役に立つ情報や便利なことを示します。

梱包箱の中身について

梱包箱の中には本 RAID コントローラ以外に色々な添付品が同梱されています。本 RAID コントローラに添付の構成表を参照し、全ての添付品が揃っていることを確認してください。万一、足りないものや損傷しているものがあつた場合には、本 RAID コントローラをご購入された販売店にご連絡ください。

第三者への譲渡について

本 RAID コントローラを第三者に譲渡（または売却）する時には、必ず本書を含む全ての添付品をあわせて譲渡（または売却）してください。



重要

物理デバイス内のデータについて

譲渡する装置内に搭載されている物理デバイスに保存されている大切なデータ(例えば顧客情報や企業の経理情報など)が第三者へ漏洩することの無いようにお客様の責任において確実に処分してください。

WindowsやLinuxなどのオペレーティングシステムの「ゴミ箱を空にする」操作やオペレーティングシステムの「フォーマット」コマンドでは見た目は消去されたように見えますが、実際のデータは物理デバイスに書き込まれたままの状態にあります。完全に消去されていないデータは、特殊なソフトウェアにより復元され、予期せぬ用途に転用されるおそれがあります。

このようなトラブルを回避するために市販の消去用ソフトウェア(有償)またはサービス(有償)を利用し、確実にデータを処分することを強くお勧めします。データの消去についての詳細は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

なお、データの処分をしないまま、譲渡（または売却）し、大切なデータが漏洩された場合、その責任は負いかねます。

ソフトウェアに関しては、譲渡した側は一切の複製物を所有しないでください。また、インストールした装置から削除した後、譲渡してください。

廃棄について

本 RAID コントローラの廃棄については、各自治体の廃棄ルールに従って分別廃棄してください。詳しくは、各自治体にお問い合わせください。



物理デバイスやバックアップデータカートリッジ、フロッピーディスク、その他書き込み可能なメディア(CD-R/CD-RWなど)に保存されているデータは、第三者によって復元や再生、再利用されないようお客様の責任において確実に処分してから廃棄してください。個人のプライバシーや企業の機密情報を保護するために十分な配慮が必要です。

データの保管について

オペレータの操作ミス、衝撃や温度変化等による装置の故障によってデータが失われる可能性があります。万一来て、物理デバイスに保存されている大切なデータは、定期的にバックアップを行ってください。

輸送について

本 RAID コントローラを輸送する際は、本書の「1 章 (5.ハードウェアのセットアップ)」を参考に本体装置から取り出し、本 RAID コントローラとすべての添付品を購入時の梱包箱に入れてください。

保守用部品について

本 RAID コントローラの保守用部品の保有期間は、製造打ち切り後5年です。

本書で使用する略称

正 式 名 称	略 称
N8103-171/G171 ユーザーズガイド	本書
N8103-171/G171 RAID コントローラ	RAID コントローラ
オペレーティングシステム	OS
Universal RAID Utility	URU
ドライブグループ (Drive Group)	DG
論理ドライブ バーチャルドライブ (Virtual Drive)	VD
ハードディスクドライブ (HDD)	物理デバイス

WebBIOS と Universal RAID Utility の用語対応表

「WebBIOS」上の用語と「Universal RAID Utility」上の用語は下記のように対応しています。

本書および WebBIOS 上の表示	Universal RAID Utility 上の表示
Drive Group (DG)	ディスクアレイ
Virtual Drive (VD)	論理ドライブ
Online Optimal	オンライン
Degraded	縮退
Unconfigured Good	レディ
LED	スロットランプ

目 次

まえがき	i
使用上のご注意 ～必ずお読みください～	iii
本書で使用する記号とその内容	iv
安全上のご注意	v
取り扱い上のご注意 ～装置を正しく動作させるために～	x
取り扱い上のご注意 ～静電気対策について～	xi
本書について	xii
梱包箱の中身について	xii
第三者への譲渡について	xiii
廃棄について	xiv
データの保管について	xiv
輸送について	xiv
保守用部品について	xiv
本書で使用する略称	xv
WebBIOS と Universal RAID Utility の用語対応表	xv
第 1 章 概要	1
1. 運用上のご注意～必ずお守りください～	1
1-1. Universal RAID Utility のインストール	1
1-2. パトロールリードによる予防保守	2
1-3. ディスクの予防交換	3
1-4. 休止／スタンバイ状態	3
1-5. 物理デバイスのスロット番号	4
2. 仕様	5
3. 本 RAID コントローラの特徴	5
4. 各部の名称と機能	6
5. ハードウェアのセットアップ	8
5-1. ブラケットの選択・取り付け	8
5-2. 本 RAID コントローラ取り付け時の注意事項	9
5-3. LED ケーブルの接続	10
第 2 章 RAID	11
1. RAID の概要	11
1-1. RAID(Redundant Array of Independent Disks)とは	11
1-2. RAID レベル	11
1-3. ドライブグループ(Drive Group)	12
1-4. バーチャルドライブ(Virtual Drive)	12
1-5. ホットスワップ(Hot Swap)	13
1-6. ホットスペア(Hot Spare)	13
1-7. ライトキャッシュ設定 (Write Cache Policy)	13
2. RAID レベル	14
2-1. RAID レベルの特徴	14
2-2. RAID0	15
2-3. RAID1	15
2-4. RAID10	16
第 3 章 本 RAID コントローラの機能	17
1. リビルド	17
1-1. マニュアルリビルド(手動リビルド)	17
1-2. オートリビルド(自動リビルド)	17
2. パトロールリード	18
3. 整合性チェック	18
第 4 章 WebBIOS の機能	19
1. WebBIOS のサポート機能	19
2. WebBIOS の起動とメニュー	20
2-1. WebBIOS の起動	20

2-2. Main Menu	21
2-3. Advance SoftWare Opitons	25
2-4. Controller Selection	25
2-5. Controller Properties	26
2-6. Scan Devices	31
2-7. Virtual Drives	32
2-8. Drives	33
2-9. Configuration Wizard	36
2-10. Physical View / Logical View	36
2-11. Events	36
2-12. Exit	37
3. バーチャルドライブの作成	38
3-1. Configuration Wizard	39
3-2. Configure SPAN	48
3-3. Virtual Drive Definition 設定項目	55
4. 各種機能操作方法	57
4-1. 整合性チェック (Check Consistency) 機能	57
4-2. マニュアルリビルド機能	59
4-3. ホットスペア	62
4-4. Locate 機能	66
4-5. Slow Initialize 機能	67
4-6. WebBIOS と Universal RAID Utility	68
第 5 章 運用・保守	70
1. 保守サービス	70
2. 予防保守	70
2-1. データのバックアップ	70
3. 保守機能	70
3-1. Configuration on Disk(COD)機能	70
3-2. リビルド機能	70
4. 本 RAID コントローラの交換	71
5. 障害時の対処	72
5-1. エラーメッセージ	72
5-2. トラブルシューティング	74

第 1 章 概要

本 RAID コントローラを初めてお使いになる場合は、この章からお読みください。

ここでは、本 RAID コントローラの運用上必ずお守りしていただきたい事項、ならびに、本 RAID コントローラの特徴とハードウェアのセットアップについて説明します。

1. 運用上のご注意～必ずお守りください～

本 RAID コントローラを安全に運用していただくため、以下の注意事項をお守りください。

1-1. Universal RAID Utility のインストール

本 RAID コントローラをオペレーティングシステム(以降「OS」と呼ぶ)上から管理することができる管理ユーティリティ Universal RAID Utility を必ずインストールしてください。本ユーティリティをインストールすると、以下のような RAID システムの管理を行えるようになります。

- RAID システム上発生したイベントや異常がログに登録され、システムの障害解決や診断に有効活用できます。
- ESMPRO を使用して Universal RAID Utility のイベント情報を監視できます。
- マニュアルリビルド / 整合性チェックを実行できます。

Universal RAID Utility のインストール方法は、本体装置添付の EXPRESSBUILDER に収められている「本体装置のユーザズガイド」、「Universal RAID Utility ユーザズガイド」を参照してください。

1-2. パトロールリードによる予防保守

物理デバイスの後発不良に対する予防保守として、本 RAID コントローラではパトロールリードが定期的に動作します。この機能により、物理デバイスの後発不良を早期に発見し修復することができます。

パトロールリードの詳しい機能については、「第 3 章(2. パトロールリード)」を参照してください。



チェック

パトロールリード実行中は、物理デバイスのアクセスLEDが頻繁に点滅します。

パトロールリードがメディアエラーを発見、修復した場合以下のイベントが URU のログビューアや OS のシステムログに登録される場合がありますが異常ではありません。

• ログビューア

種類	情報
イベント ID	319
説明	[CTRL:X PD:Y(ID=z) (物理デバイスの製造元/製品名 物理デバイスのファームウェアバージョン)] 物理デバイスで修復済メディアエラーが発生しました。

• システムログ

ソース	raidsrv
種類	情報
イベント ID	319
説明	[CTRL:X PD:Y(ID=z) (物理デバイスの製造元/製品名 物理デバイスのファームウェアバージョン)] 物理デバイスで修復済メディアエラーが発生しました。



チェック

OSがLinuxの場合、システムログ(syslog)には、ソース、種類、イベントIDの情報は表示しません。説明欄の内容のみ記録されます。

1-3. ディスクの予防交換

- 運用中に物理デバイスで S.M.A.R.T.エラーが発生したときは、イベントを登録します。S.M.A.R.T.エラーが発生した物理デバイスは故障する可能性があるため、なるべく早く交換してください。
- イベントに記載されている ID ナンバーが交換対象ディスクのロット番号になります。

• ログビューア

種類	警告
イベント ID	305
説明	[CTRL:X PD:X(ID=X) (製造元/製品名 物理デバイスのファームウェアバージョン)] S.M. A.R.T.エラーを検出しました。

• システムログ

ソース	raidsrv
種類	警告
イベント ID	305
説明	[CTRL:X PD:X(ID=X) (製造元/製品名 物理デバイスのファームウェアバージョン)] S.M. A.R.T.エラーを検出しました。



重要

- 交換する物理デバイスを実装しているロットを確認するために事前に Locateコマンドを実行することをお奨めします。詳細については本書の「4章(4-4. Locate機能)」参照してください。
- 上記エラーが発生した場合、[物理デバイスのプロパティ]に表示する「S.M.A.R.T.」の項目の値が「検出」に変化します。



チェック

OSがLinuxの場合、システムログ(syslog)には、ソース、種類、イベントIDの情報は表示しません。説明欄の内容のみ記録されます。

1-4. 休止／スタンバイ状態

本製品をご使用の環境では、休止状態、スタンバイへの移行は行わないで下さい。OS 上、Universal RAID Utility 上に不正なログが登録される場合があります。

1-5. 物理デバイスのスロット番号

WebBIOS の Physical Drive と Universal RAID Utility の物理デバイスの対応は、以下の情報で判断します。

WebBIOS で表示するスロット番号と Universal RAID Utility の物理デバイスの ID が対応しています。詳細は Universal RAID Utility のユーザズガイドを参照してください。

- WebBIOS

Physical View で表示するスロット番号*1

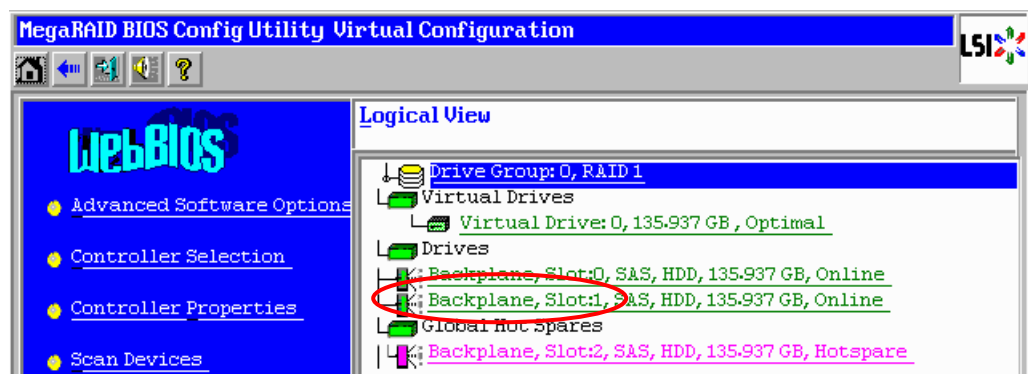
*1：Drives 欄で表示される情報はスロット番号、物理デバイスの種類、容量、状態を表示します。

スロット番号は「0～7」で表示され、物理デバイスベイのスロット番号を表します。

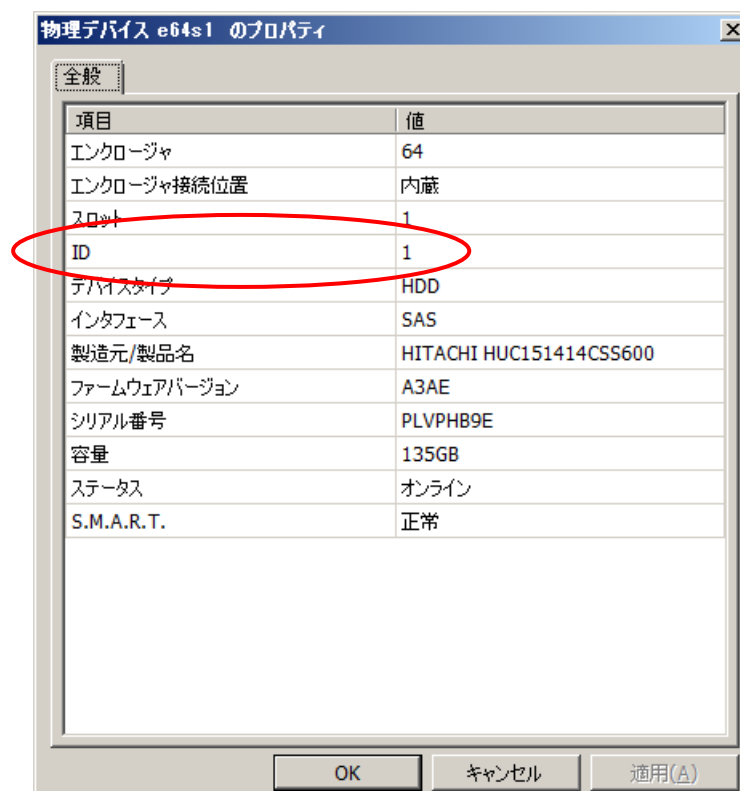
- Universal RAID Utility

物理デバイスの「プロパティ」で表示される[ID]

WebBIOS の Physical View の表示画面



Universal RAID Utility の物理デバイスのプロパティ画面



2. 仕様

項 目	仕 様	備 考
	N8103-171/G171	
SAS コネクタ数	内部 2 チャンネル	1 チャンネルに 4 ポート
キャッシュ容量	0MB	
PCI バス	PCI Express 2.0 準拠	
PCI コネクタ	PCI Express (x8)	
最大 PCI バス転送レート	5Gigabits/lane	
デバイスインターフェース	SAS/SATA 対応	
最大データ転送レート	SAS: 6.0 Gb/s SATA: 6.0 Gb/s	
RAID レベル	0, 1, 10	
本体装置への最大搭載数	1 枚	
最大物理デバイス接続台数	8 台	1 チャンネルに物理デバイス 4 台接続
最大論理ドライブ数	16	
外形寸法	81(幅)x182(長さ)x24(高)mm	ブラケットの長さは除く
質量	約 0.1 kg	
動作電圧	12V	
消費電力(MAX)	8.28W	
動作環境	温度 10°C~40°C 湿度 20%~80%	結露しないこと

3. 本 RAID コントローラの特徴

本 RAID コントローラは、SAS/SATA 対応のインターフェースコネクタが 2 チャンネル（1 チャンネルに 4 ポート）搭載されています。データ転送レートは、各ポートあたり最大 6.0 Gb/s であり、高パフォーマンスを実現しています。

本 RAID コントローラの特徴

- SAS のインターフェースで最大 6.0Gb/s の転送レート
- 1 ボードあたり最大 8 台の SAS/SATA 物理デバイスを接続可能(1 チャンネル当たり 4 台)
- RAID レベル 0, 1, 10 をサポート
- ESMPRO を使った通報監視が可能
- 障害発生ドライブの自動検出
- システムを停止せずに故障物理デバイスの交換(ホットスワップ)が可能

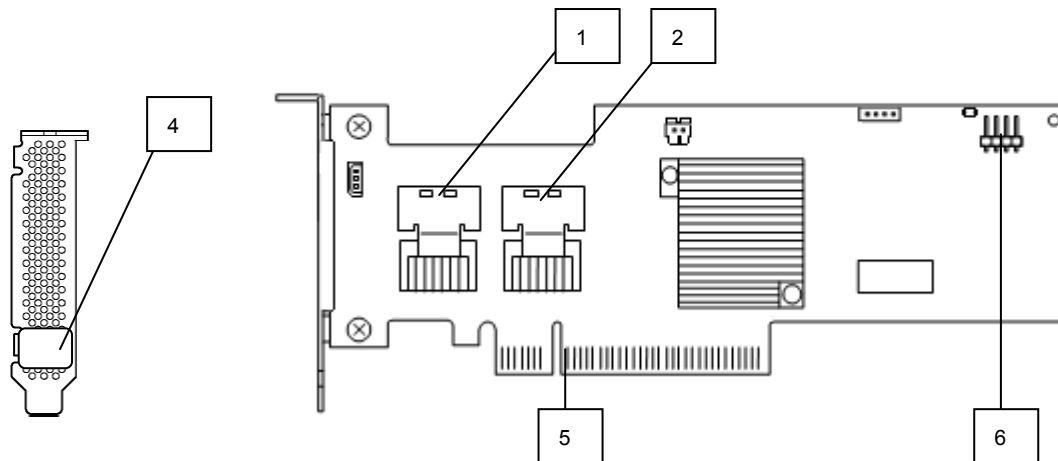


本RAIDコントローラは、PCIホットプラグ機能をサポートしていません。

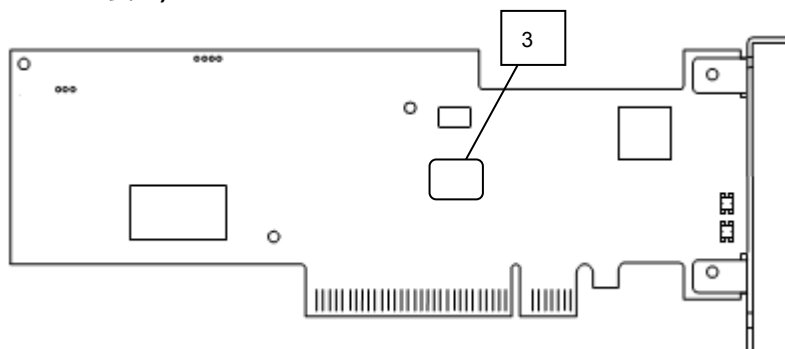
4. 各部の名称と機能

本 RAID コントローラの各部の名称を以下に説明いたします。

(本 RAID コントローラ表面)



(本 RAID コントローラ裏面)



-
- 1** チャンネル 1(Port 0～3)
SAS ケーブルを接続するためのコネクタです。
 - 2** チャンネル 2(Port 4～7)
SAS ケーブルを接続するためのコネクタです。
 - 3** HW ラベル
本 RAID コントローラの管理レビジョンを表示しているラベルです。
 - 4** N コードラベル
本 RAID コントローラのNコードを表示しています。
 - 5** PCI Express コネクタ
本体装置の PCI スロット (PCI Express) に接続するコネクタです。
 - 6** Global LED コネクタ
本体装置の RAID LED ケーブルコネクタに接続するコネクタです。*¹

*¹ N8154-65 3.5 型 HDD ケージご使用の場合のみ接続します。

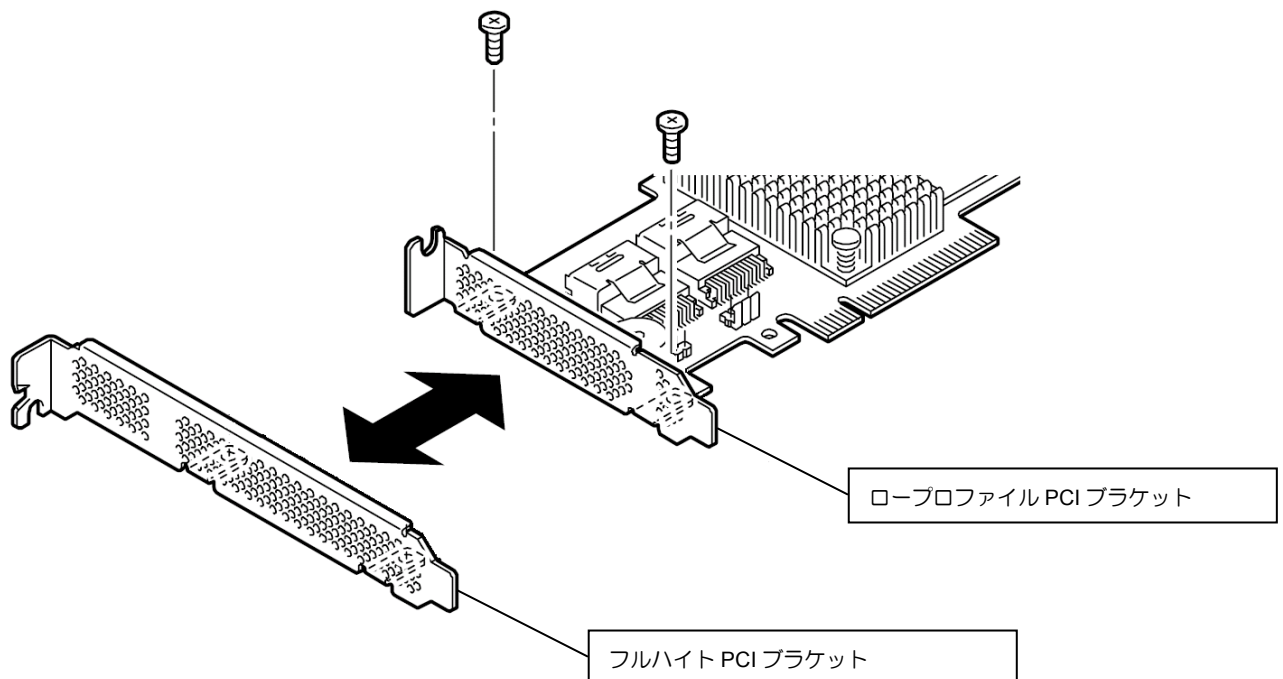
5. ハードウェアのセットアップ

本 RAID コントローラを本体装置に取り付ける際には、本体装置付属のユーザズガイドを参照してください。

5-1. ブラケットの選択・取り付け

本 RAID コントローラはロープロファイル PCI ブラケットが取り付けられています。フルハイトに対応した PCI スロットに本 RAID コントローラを取り付ける場合は、添付のフルハイト PCI ブラケットに交換する必要があります。

1. ロープロファイル PCI ブラケットと本 RAID コントローラを固定しているネジ（2 本）を取り外します
2. ロープロファイル PCI ブラケットを取り外します。
3. フルハイト PCI ブラケットを取り付けます。
4. フルハイト PCI ブラケットを手順 1 で取り外したネジ（2 本）で固定します。



ヒント

フルハイト PCI ブラケットからロープロファイル PCI ブラケットに取り替える時も同じ手順です。

5-2. 本 RAID コントローラ取り付け時の注意事項

本 RAID コントローラを取り付ける際には、本体装置付属のユーザズガイドを参照してください。

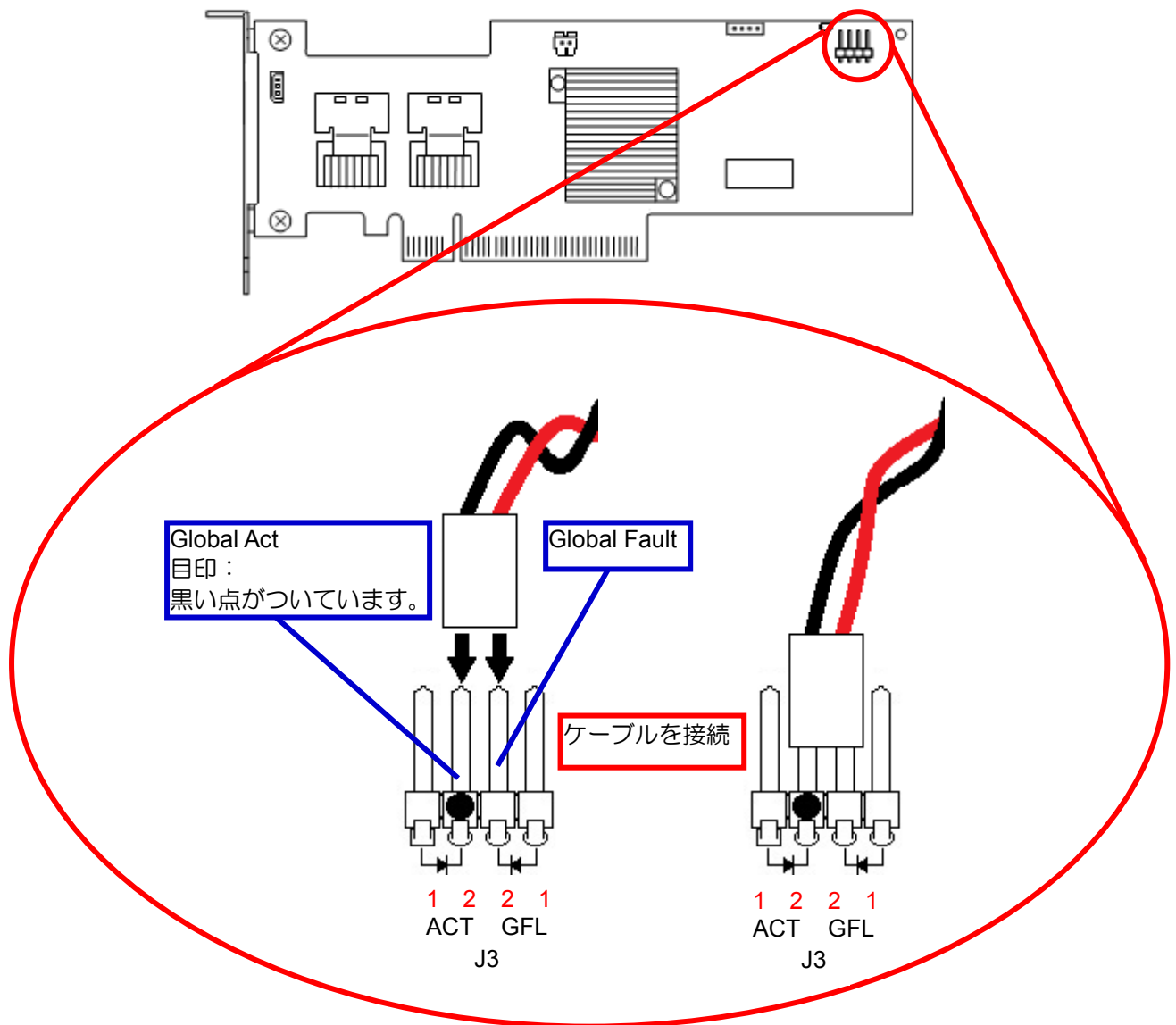


セットアップを行う前に、以下の注意事項をご覧ください。

- PCIスロット（PCI Express）には、本体装置により実装制限がある場合があります。取り付け前に本体装置のユーザズガイドを確認してください。
- 本RAIDコントローラに接続する物理デバイスは、定められた規格の物理デバイスを使用してください。本RAIDコントローラに接続可能な物理デバイスについては、お買い求めの販売店にご確認ください。
- 本RAIDコントローラは、他のPCIボード(RAIDコントローラ等)の混在使用を制限している場合があります。本RAIDコントローラを他のPCIボードと混在してご使用になる場合は、混在が可能かどうかお買い求めの販売店にご確認ください。
- 取り外した増設スロットカバーは大切に保管してください。外したネジは、本RAIDコントローラの取り付けに使用しますので、なくさないでください。
- 本RAIDコントローラは、PCIホットプラグ機能には対応していません。本RAIDコントローラを抜き差しする場合は、必ず本体装置の電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 本RAIDコントローラがうまく取り付けられない場合は、一旦本RAIDコントローラを取り外して、再度取り付けなおしてください。過度の力を加えると破損するおそれがありますので注意してください。
- ポート番号は、本体装置における物理デバイスの物理的な位置により、一通りに定められています。本RAIDコントローラと本体装置にSASケーブルをつなぐ際は、必ずポート番号に対応したコネクタを確認し、ケーブルを差し込んでください。間違えて差し込むと故障の原因になります。本体装置のポート番号については、本体装置のユーザズガイドを参照してください。

5-3. LED ケーブルの接続

LED ケーブルの接続は、以下の図及び接続表を参照してください。また、マザーボードへの接続は対象の本体装置のユーザーズガイドを参照してください。



LED ケーブル接続表

		LED ケーブル(本体装置添付)
Global LED コネクタ	1ピン	使用しません
	2ピン	ケーブル接続

第 2 章 RAID

ここでは、本 RAID コントローラがサポートしている RAID 機能について説明します。

1. RAID の概要

1-1. RAID(Redundant Array of Independent Disks)とは

直訳するとディスクの冗長配列となり、物理デバイスを複数まとめて扱う技術のことを意味します。

つまり RAID とは複数の物理デバイスを 1 つのドライブグループ(DG)として構成し、これらを効率よく運用することです。これにより単体の大容量物理デバイスより高いパフォーマンスを得ることができます。

本 RAID コントローラでは、1 つの DG を複数の論理ドライブ(バーチャルドライブ)に分けて設定することができます(最大 16 個)。これらのバーチャルドライブは、ホストコンピュータからそれぞれ 1 つの物理デバイスとして認識されます。ホストコンピュータからのアクセスは、DG を構成している複数の物理デバイスに対して並行して行われます。

また、使用する RAID レベルによっては、ある物理デバイスに障害が発生した場合でも残っているデータからリビルド機能によりデータを復旧させることができ、高い信頼性を提供することができます。

1-2. RAID レベル

RAID 機能を実現する記録方式には、複数の種類(レベル)が存在します。その中で本 RAID コントローラがサポートする RAID レベルは、「RAID0」「RAID1」「RAID10」です。DG を作成する上で必要となる物理デバイスの数量は RAID レベルごとに異なりますので、下の表で確認してください。

RAID レベル	必要な物理デバイス 数	
	最小	最大
RAID 0	1	8
RAID 1	2	2
RAID 10	4	8



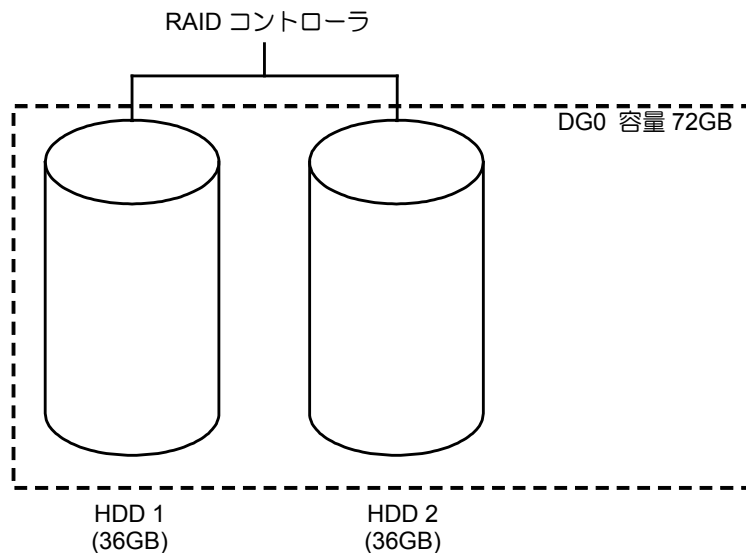
ヒント

各RAID レベルの詳細は、本書の「2章 (2.RAID レベル) 」を参照してください。

1-3. ドライブグループ(Drive Group)

ドライブグループ(DG)は複数の物理デバイスをグループ化したものを表します。本 RAID コントローラの設定可能な DG の数は、物理デバイスを 8 台実装した場合で最大 8 個になります。

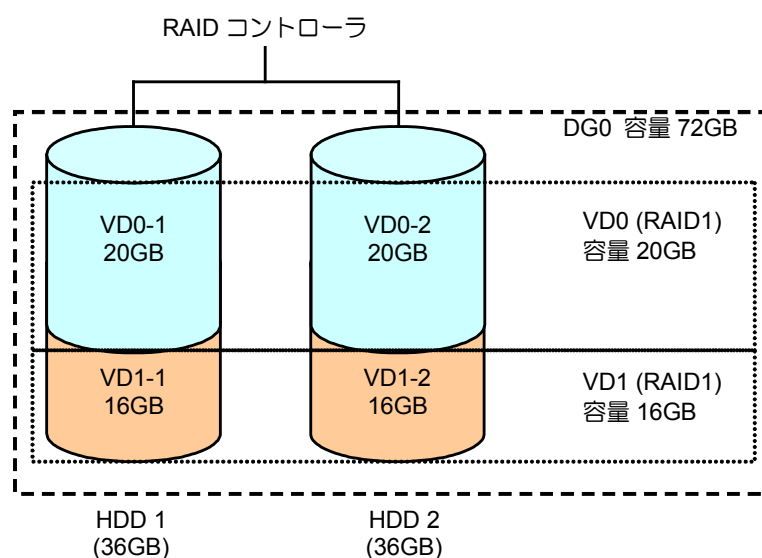
次の図は本 RAID コントローラに物理デバイスを 2 台接続し、2 台で 1 つの DG を作成した構成例です。



1-4. バーチャルドライブ(Virtual Drive)

バーチャルドライブ(VD)は作成した DG 内に、論理ドライブとして設定したものを表し、OS からは物理ドライブとして認識されます。本 RAID コントローラの設定可能な VD の数は、最大 16 個になります。

次の図は本 RAID コントローラに物理デバイスを 2 台接続し、2 台で 1 つの DG を作成し、その DG に RAID1 の VD を 2 つ設定した構成例です。



1-5. ホットスワップ(Hot Swap)

システムの稼働中に物理デバイスの脱着(交換)を手動で行うことができる機能をホットスワップといいます。

1-6. ホットスペア(Hot Spare)

ホットスペアとは、冗長性のある RAID レベルで構成された論理ドライブ配下の物理デバイスに障害が発生した場合に、代わりに使用できるように用意された予備の物理デバイスです。物理デバイスの障害を検出すると、障害を検出した物理デバイスを切り離し(オフライン)、ホットスペアを使用してリビルドを実行します。



ヒント

ホットスペアを使用したリビルド「ホットスペアリビルド」については本書の「3章(1-2. オートリビルド(自動リビルド))」を参照してください。

1-7. ライトキャッシュ設定 (Write Cache Policy)

本 RAID コントローラでは、バーチャルドライブのライトキャッシュ設定はライトスルーで動作します。ライトキャッシュ設定をライトスルーから変更することはできません。

2. RAID レベル

本 RAID コントローラがサポートしている RAID レベルについて詳細な説明をします。

2-1. RAID レベルの特徴

各 RAID レベルの特徴は下表の通りです。

レベル	機 能	冗長性	特 徴
RAID0	ストライピング	なし	データ読み書きが最も高速 容量が最大 容量=物理デバイス 1 台の容量×物理デバイス台数
RAID1	ミラーリング	あり	物理デバイスが 2 台必要 容量=物理デバイス 1 台の容量
RAID10	RAID1 のスパン	あり	物理デバイスが 4 台、6 台、または 8 台必要 容量=物理デバイス 1 台の容量×(物理デバイス台数÷2)

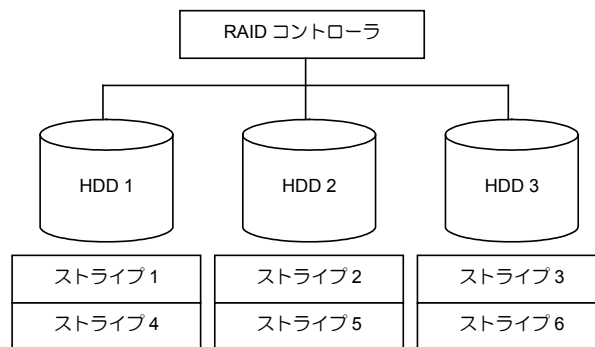
2-2. RAID0

データを各物理デバイスへ分散して記録します。この方式を「ストライピング」と呼びます。

図ではストライプ 1(物理デバイス 1)、ストライプ 2(物理デバイス 2)、ストライプ 3(物理デバイス 3)・・・というようにデータが記録されます。すべての物理デバイスに対して一括してアクセスできるため、最も優れたアクセス性能を提供することができます。



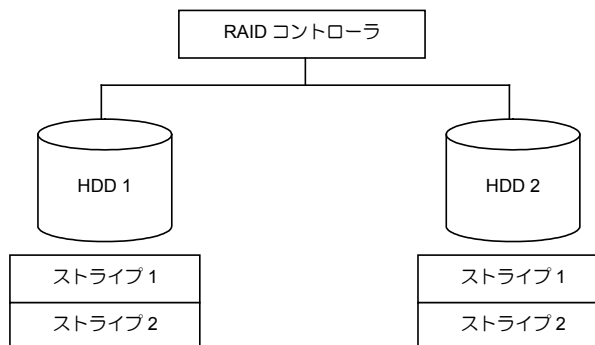
RAID0はデータの冗長性がありません。物理デバイスが故障するとデータの復旧ができません。



2-3. RAID1

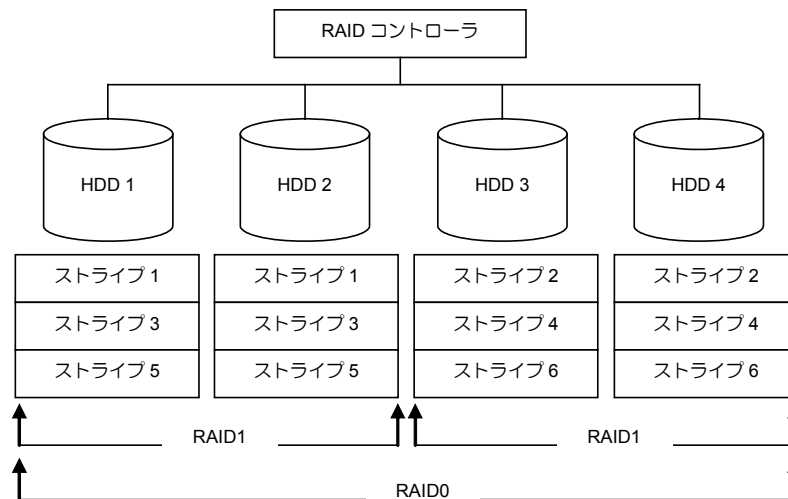
1つの物理デバイスに対してもう1つの物理デバイスへ同じデータを記録する方式です。この方式を「ミラーリング」と呼びます。

1台の物理デバイスにデータを記録するとき同時に別の物理デバイスに同じデータが記録されます。一方の物理デバイスが故障したときに同じ内容が記録されているもう一方の物理デバイスを代わりとして使用することができるため、システムをダウンすることなく運用できます。



2-4. RAID10

データを2つの物理デバイスへ「ミラーリング」方式で分散し、さらにそれらのミラーを「ストライピング」方式で記録しますので、RAID0の高いディスクアクセス性能と、RAID1の高信頼性を同時に実現することができます。



第 3 章 本 RAID コントローラの機能

本章では、本 RAID コントローラが持つ機能を説明します。

1. リビルド

リビルド(Rebuild)は、物理デバイスに故障が発生した場合に、故障した物理デバイスのデータを復旧させる機能です。RAID1 や RAID10 といった、冗長性のあるバーチャルドライブ(VD)に対して実行することができます。

1-1. マニュアルリビルド(手動リビルド)

本 RAID コントローラの RAID システム管理ユーティリティ WebBIOS や、Universal RAID Utility を使用し、手動で実施するリビルドです。物理デバイスを選択してリビルドを実行できます。

Universal RAID Utility を使用した手順は、本体装置添付の EXPRESSBUILDER に収められている「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を、WebBIOS を使用した手順は本書の「4 章(4.2-マニュアルリビルド機能)」を参照してください。

1-2. オートリビルド(自動リビルド)

RAID システム管理ユーティリティを使用せず、自動的にリビルドを実行する機能です。

オートリビルドには、以下の 2 種類の方法があります。

- ホットスペアリビルド

ホットスペアを用いて自動的にリビルドを行う機能です。ホットスペアが設定されている構成では、VD に割り当てられている物理デバイスに故障が生じたときに、自動的にリビルドが実行されます。

- ホットスワップリビルド

故障した物理デバイスをホットスワップで交換することにより、自動的にリビルドが実行される機能です。



重要

- リビルドに使用する物理デバイスは、故障した物理デバイス と同一容量、同一回転数、同一規格のものを使用してください。
- リビルド中は負荷がかかるため、処理速度が低下します。
- リビルド中は、本体装置のシャットダウンやリブートを実施しないでください。
- 故障した物理デバイスを抜いてから新しい物理デバイス を実装するまでに、90秒以上の間隔をあけてください。
- ホットスワップリビルドが動作しない場合は、マニュアルリビルドを実行してください。
- 1度故障した物理デバイスを用いてホットスワップリビルドを実行することはできません。

2. パトロールリード

パトロールリード(Patrol Read)は、物理デバイスの全領域にリード&ベリファイ試験を実施する機能です。パトロールリードは、バーチャルドライブ(VD)やホットスペアに割り当てられているすべての物理デバイスに対して実行することができます。

パトロールリードにより、物理デバイスの後発不良を検出・修復することができます。また、パトロールリードは整合性チェックと比べて低負荷で実施することができます。

冗長性のある VD を構成する物理デバイスやホットスペアに割り当てられた物理デバイスの場合は、実行中に検出したエラーセクタを修復することができます。



- 本RAIDコントローラは、工場出荷時にパトロールリードが有効[Enable]に設定されています。
- パトロールリードは定期的に自動で実行されます。
- パトロールリード実行中にシステムを再起動しても、再開して続きます。

3. 整合性チェック

整合性チェック(Check Consistency)は、バーチャルドライブ(VD)の整合性をチェックするための機能です。RAID0 以外の冗長性のある VD に対して実行することができます。

整合性チェックは、WebBIOS や Universal RAID Utility で実行できます。

整合性チェックは整合性をチェックするだけでなく、実行中に検出したエラーセクタを修復することができるため、予防保守として使用できます。



- 整合性チェック中は負荷がかかるため、処理速度は低下します。
- 整合性チェック実行中にシステムの再起動を行うと途中から再開します。
- 整合性チェックのスケジュール運転は、WebBIOS、もしくはUniversal RAID UtilityのraidcmdコマンドとOSのスケジューリング機能などを組み合わせて行えます。

第 4 章 WebBIOS の機能

ここでは本 RAID コントローラのコンフィグレーションユーティリティ「WebBIOS」について説明します。

1. WebBIOS のサポート機能

- 物理デバイスのモデル名/容量の情報表示
- 物理デバイスの割り当て状態表示
- VD の作成
 - RAID レベルの設定
 - Strip Size の設定
- VD の設定情報・ステータスの表示
- VD の削除
- コンフィグレーションのクリア
- イニシャライズの実行
- 整合性チェックの実行
- マニュアルリビルドの実行

2. WebBIOS の起動とメニュー

2-1. WebBIOS の起動

以下の画面が表示された後、<Ctrl>キーを押しながら<H>キーを押します。

【POST 画面イメージ(バーチャルドライブ未設定時)】

```
LSI MegaRAID SAS - MFI BIOS
Version XXXX (Build MMM DD, YYYY)
Copyright (c) 20XX LSI Corporation
HA - X (Bus X   Dev X) LSI MegaRAID SAS 9240-8i
FW package: X.X.X - XXXX

0 JBOD(s) found on the host adapter
0 JBOD(s) handled by BIOS

0 Virtual Drive(s) found on the host adapter.

0 Virtual Drive(s) handled by BIOS.
Press <Ctrl> <H> for WebBIOS.__
```

POST 後に以下の"Adapter Selection"画面が表示されます。WebBIOS を用いて操作を実施する[Adapter No.]を選択してチェックし、[Start]をクリックしてください。

Adapter No.	Bus No.	Device No.	Type	Firmware Version
0. <input checked="" type="radio"/>	1	0	LSI MegaRAID SAS 9240-8i	x.xxx.xxx-xxxx

Start

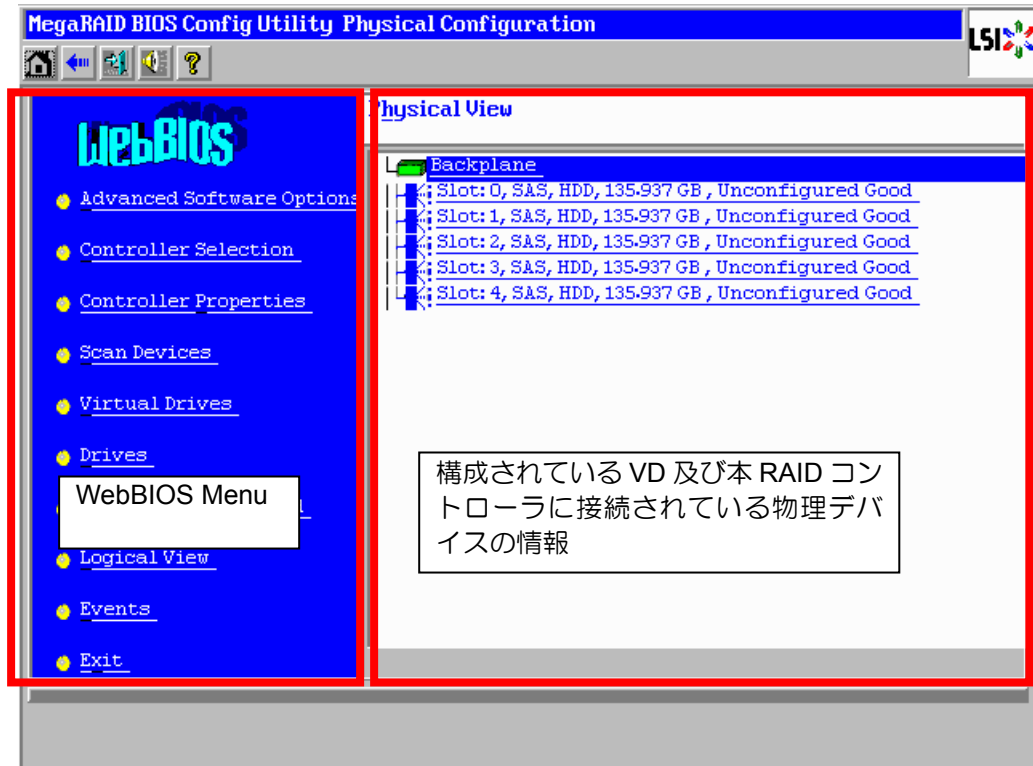


- POST中は<Pause>キーなどの操作に関係ないキーを押さないでください。
- <Ctrl>+<H>キーを押し忘れてしまった場合、またはPOST後にAdapter Selectionの画面が表示されなかった場合は、再起動を行い、再度<Ctrl>+<H>キーを押してください。

2-2. Main Menu

Adapter Selection を実行すると、選択した Adapter の WebBIOS トップ画面が表示されます。

各 Menu の機能については、[\[WebBIOS Menu\]](#)の表を参照してください。また、バーチャルドライブ(VD)や物理デバイスの各ステータスについては、[\[VD のステータス\]](#)、[\[物理デバイスのステータス\]](#)の表を参照してください。



WebBIOS Menu

Advanced Software Options	本機能はサポートしていません。
Controller Selection	Adapter Selection 画面に戻ります。
Controller Properties	本 RAID コントローラの設定情報を表示します。
Scan Devices	本 RAID コントローラに接続されている物理デバイスを再認識します。
Virtual Drives	すでに構成されている VD の操作画面を表示します。
Drives	本 RAID コントローラに接続されている物理デバイスの操作画面を表示します。
Configuration Wizard	VD を構築するウィザードを表示します。
Physical View / Logical View	物理デバイスの表示 と VD の表示を切り替えます。
Events	本機能はサポートしていません。
Exit	WebBIOS の終了画面へ移動します。

Virtual Drives のステータス (Physical View では表示されません。)

Optimal	VD が正常であることを示しています。 緑色で表示されます。
Degraded	該当する VD の物理デバイスが 1 台縮退している状態を示しています。 青色で表示されます。
Offline	該当する VD がオフラインの状態です。 赤色で表示されます。
Initialization	該当する VD を初期化しています。
ConsistencyCheck	該当する VD の整合性をチェックしています。
Rebuild	該当する VD がリビルド中です。

物理デバイスのステータス

Unconfigured Good	本RAID コントローラに接続されている物理デバイスで使用されていない状態です。 青色で表示されます。
Online	DG に組み込まれている物理デバイスです。 正常であることを示しています。 緑色で表示されます。
Offline	DG に組み込まれている物理デバイスです。 オフライン状態であることを示しています。 赤色で表示されます。
Unconfigured Bad	該当する物理デバイスが故障しています。 (本ステータスの物理デバイスは Physical View でのみ確認できます。) 黒色で表示されます。
Failed	該当する物理デバイスが故障しています。 赤色で表示されます。
Rebuild	該当する物理デバイスがリビルド中です。 黄土色で表示されます。
Hotspare	ホットスペアに指定した物理デバイスに表示されます。 桃色で表示されます。



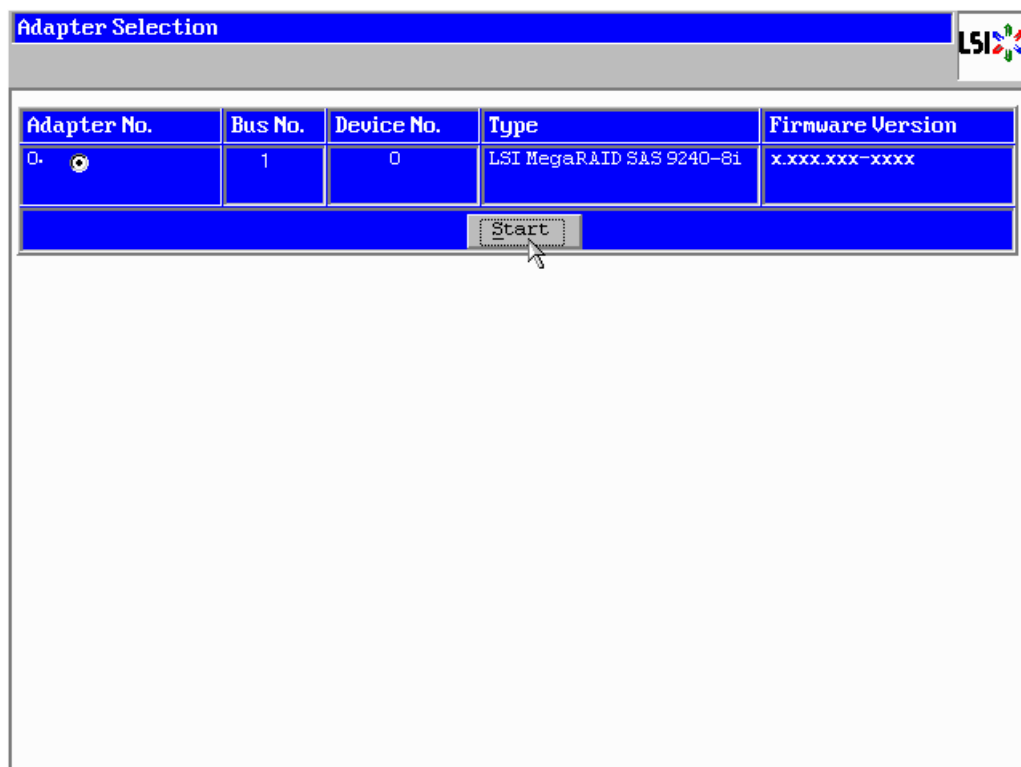
- Physical Viewの画面右側で表示される情報はスロット番号、物理デバイスの種類、容量、状態を表示します。
- スロット番号は「0～7」で表され、物理デバイスベイのスロット番号を表示します。
- Pred Fail Count が「1」の物理デバイスはS.M.A.R.T.エラーを意味します。
S.M.A.R.T.エラーとなった物理デバイスの情報は黄色で表示されます。
- S.M.A.R.T.エラーとなった物理デバイスは、物理デバイスの自己診断機能により、故障が予期されたことを意味しています。すぐに故障するとは限りませんが、早めに該当ディスクを交換することをお勧めいたします。


2-3. Advance SoftWare Opitons

本 RAID コントローラは Advance SoftWare Options 機能をサポートしていません。

2-4. Controller Selection

本体装置に接続された RAID コントローラの一覧を表示します(下図は RAID コントローラ 1 枚接続時の例)。操作対象の RAID コントローラを選択します。WebBIOS トップ画面より[Controller Selection]をクリックすると、WebBIOS 起動時に表示される本画面に戻ります。



Adapter No.	Bus No.	Device No.	Type	Firmware Version
0. 	1	0	LSI MegaRAID SAS 9240-8i	x.xxx.xxx-xxxx

Start

2-5. Controller Properties

WebBIOS トップ画面にて[Controller Properties]をクリックすると、本 RAID コントローラの設定情報が表示されます。

LSI MegaRAID SAS 9240-Bi			
Serial Number	xxxxxxxxxx	FRU	04A
SubVendorID	0x1000	Drive Security Capable	No
SubDeviceID	0x9240	PortCount	8
HostInterface	PCIE	NVRAMSize	32 KB
Firmware Version	x.xxxx.xxx-xxxx	Memory Size	0 MB
FW Package Version	xx.xx.x-xxxx	Min Strip Size	8 KB
Firmware Time	mm dd yyyy:ttttt	Max Strip Size	64 KB
WebBIOS Version	x.x-xx-xxx	Virtual Drive Count	x
Drive Count	x	Hot Spare Spin Down	Disabled
Unconfig Good Spin Down	Disabled	Drive Standby Time	30 minutes

Next

Home Back

設定情報画面にて[Next]をクリックすると、本 RAID コントローラの詳細設定が表示されます。

Properties			
Battery Backup	None	Coercion Mode	None
Set Factory Defaults	No	S.M.A.R.T Polling	300 seconds
Cluster Mode	Disabled	Alarm Control	Disabled
Rebuild Rate	30	Patrol Read Rate	30
BGI Rate	30	Cache Flush Interval	4
CC Rate	30	Spinup Drive Count	2
Reconstruction Rate	30	Spinup Delay	9
NCQ	Enabled		

Submit Reset Next

Home Back

Next page

設定情報画面には次のページにもあります。[Next]をクリックすると、詳細設定が表示されます。

MegaRAID BIOS Config Utility Controller Properties			
Properties			
Stop CC On Error	No	Schedule CC	Supported
Maintain PD Fail History	Enabled	Boot Error Handling	Pause on errors
Controller BIOS	Enabled	Disk Activity	Disabled
Submit Reset			
Home		Back	

初期設定および、設定値説明

項目	設定値	説明	変更可否	備考
Battery Backup	None	—	—	
Set Factory Defaults	No	—	不可	
Cluster Mode	Disabled	—	不可	
Rebuild Rate	30	—	可	
BGI Rate	30	—	不可	
CC Rate	30	—	可	
Reconstruction Rate	30	—	不可	
NCQ	Enabled	—	不可	
Coercion Mode	None	—	不可	
S.M.A.R.T Polling	300	—	不可	
Alarm Control	Disabled	—	—	
Patrol Read Rate	30	—	可	
Cache Flush Interval	4	—	不可	
Spinup Drive Count	2	—	不可	
Spinup Delay	9	—	不可	
Stop CC On Error	No	整合性チェックで不整合を検出した際の動作を設定します。 No:修復して継続します。 Yes:中断します。	可	
Maintain PD Fail History	Enabled	—	不可	
Controller BIOS	Enabled	—	不可	
Schedule CC	Supported	整合性チェックのスケジュール運転を設定します。	可	
Boot Error Handling	Pause on errors	—	不可	
Disk Activity	Disabled	—	不可	

**重要**

Set Factory Defaults を実施すると出荷時設定に戻せなくなりますので、実施しないでください。

**ヒント**

設定値変更方法

“Controller Properties”画面にて設定変更可能なパラメータを変更した後、画面中央にある[Submit]ボタンをクリックして設定値を確定してください。

“Schedule CC”の欄の[Supported]をクリックすると、整合性チェックのスケジュール運転の設定画面が表示されます。

Schedule CC の設定項目

項目	設定値	説明	変更可否	備考
CC Frequency	Disable	整合性チェックのスケジュール間隔を設定します。 Disable：スケジュール運転無効 Continuous：常時 Hourly：1 時間周期 Daily：1 日周期 推奨設定値：Weekly：1 週間周期 推奨設定値：Monthly：1 ヶ月周期	可	
CC Start Time	12 : 00 AM	初回の整合性チェックを開始する時刻を設定します。	可	
Select VDs to Exclude CC	チェックなし	整合性チェックのスケジュール運転で、整合性チェックを実行しないVDを設定します。 チェックあり：選択しているVDに対して整合性チェックを実行しません。 チェックなし：全てのVDに対して整合性チェックを実行します。	可	
CC Start (mm/dd/yyyy)	01/01/2000	初回の整合性チェックを開始する日付を設定します。	可	
CC Mode	Sequential	Sequential：複数のVDに対して、順次整合性チェックを行います Concurrent：複数のVDに対して、同時に整合性チェックを行います。	可	



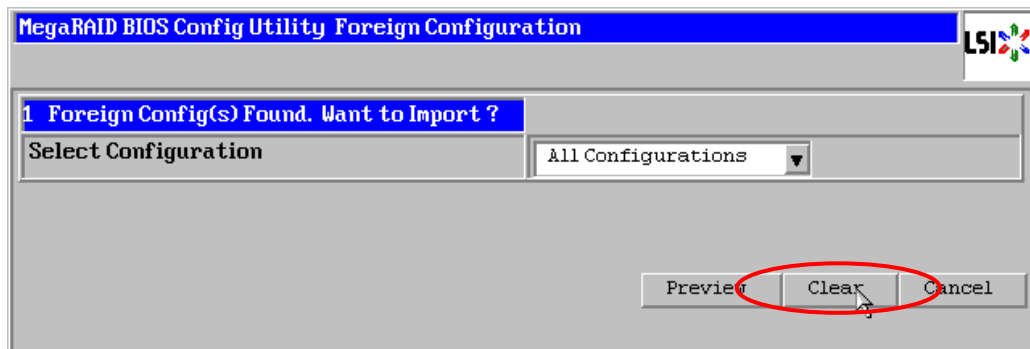
CC Frequency で設定するスケジュール運転の間隔は整合性チェック開始時の時刻を基準に設定されるため、余裕を持って間隔を設定してください。

2-6. Scan Devices

WebBIOS トップ画面にて[Scan Devices]をクリックすると、本 RAID コントローラに接続されている物理デバイスを再スキャンします。この機能は WebBIOS 起動後に新たな物理デバイスを接続した際に有効です。

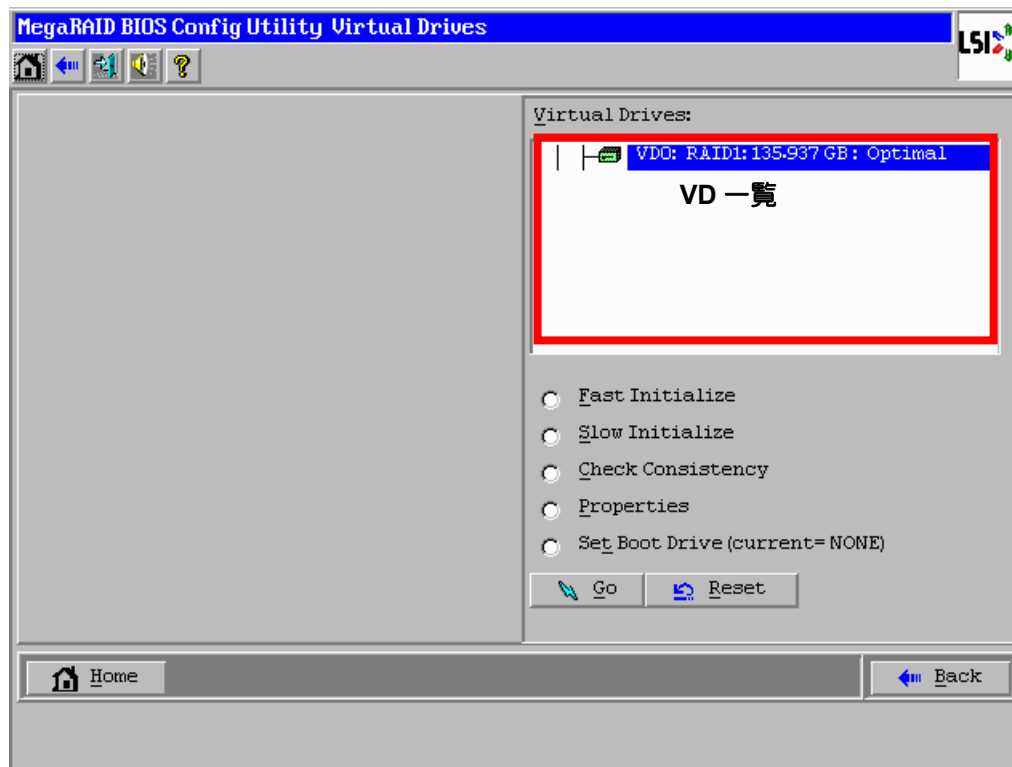


- 新たに接続した物理デバイスに他のコンフィグレーション情報が保存されている場合、以下の"Foreign Configuration"画面が表示されます。そのまま新たな物理デバイスとして使用する場合は、[Clear]をクリックしてください。新たに接続した物理デバイス内のコンフィグレーション情報がクリアされます。
- 新たに接続した物理デバイスを使用してUniversal RAID Utilityでバーチャルドライブを作成する場合、他のコンフィグレーションが残っているとVDを作成できません。その場合は、本機能を使用して残っているコンフィグレーションを削除してください。(*)
(*)Universal RAID Utilityには本機能はありません。
- N8103-171/G171以外で作成されたコンフィグレーション情報が保存されている場合、「Preview」および「Import」を選択しないでください。



2-7. Virtual Drives

WebBIOS トップ画面にて[Virtual Drives]をクリックすると、すでに構成されているバーチャルドライブ(VD)に対する操作画面が表示されます。VD 一覧の欄には、既存の VD が表示されます。



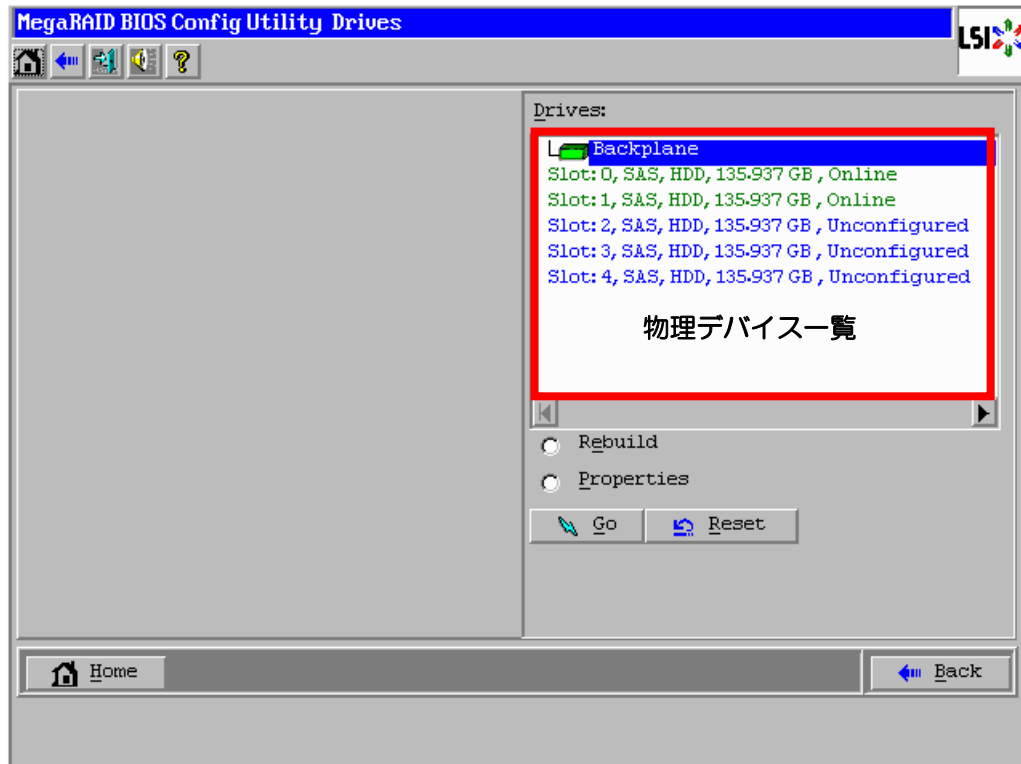
Fast Initialize	VD 一覧で選択した VD の先頭領域をクリアします。
Slow Initialize	VD 一覧で選択した VD の全領域をクリアします。
Check Consistency	VD 一覧で選択した VD の全領域の整合性チェックを行います。
Properties	VD 一覧で選択した VD のプロパティを表示します。
Set Boot Drive(Current =XX) 初期値: NONE	OS を起動する VD を指定します。 複数 VD 環境で、VD0 以外の VD から起動する場合は、手動で設定を変更する必要があります。それ以外の場合は、初期値のままご使用ください。 [設定方法] 1. VD 一覧より OS を起動させる VD を選択します。 2. Set Boot Drive (Current =XX)にチェックを入れます。 3. [Go]をクリックします。



- VDが存在しない場合は、VD一覧にVDが表示されません。本操作画面はVDが存在するときに使用してください。
- Set Boot Driveを正しく設定していても、本体装置のBIOSのBootプライオリティの順位によっては、OSが起動できない場合があります。
- VD構成後、初回の整合性チェックでは不整合が検出される場合があります。

2-8. Drives

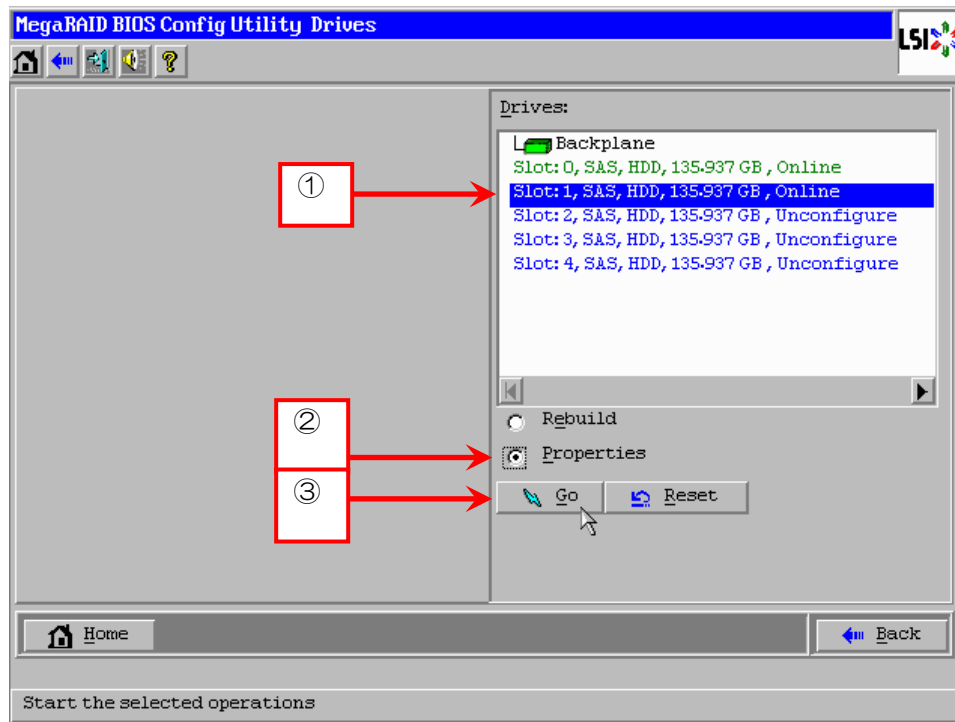
WebBIOS トップ画面にて[Drives]をクリックすると、本 RAID コントローラに接続されている物理デバイスに対する操作画面が表示されます。



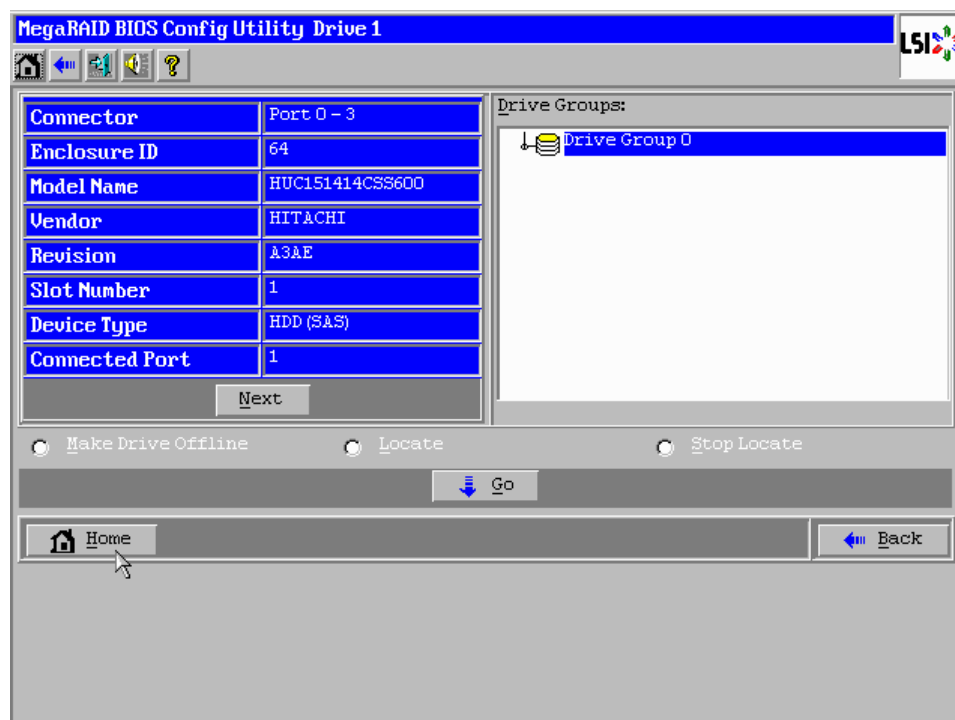
接続されている物理デバイスが存在しない場合は、画面右上の欄に物理デバイスが表示されません。本操作画面は物理デバイスが接続されているときに使用してください。

物理デバイスのプロパティの確認は以下の手順で行います。ここでは、物理デバイスのプロパティを確認する例を説明します。

- ① 確認する物理デバイスをクリックして選択する。
- ② Properties のチェック欄をクリックする。
- ③ [Go]をクリックする。



以下のようなプロパティ画面が表示されます。



Drives での操作

Locate	ディスクステータスランプを点灯、または点滅させます。
Stop Locate	Locate で点灯、または点滅させたディスクステータスランプを消灯します。
Make Global HSP	選択した物理デバイスをすべての DG を対象としたホットスペアに指定します。
Make Dedicated HSP	選択した物理デバイスを特定の DG を対象としたホットスペアに指定します。
Remove HOTSPARE	選択した物理デバイスをホットスペアから Unconfigured Good の状態にします。
Make Unconf Bad	選択した物理デバイスのステータスを故障にします。 ステータスが Unconfigured Good の物理デバイスに表示されます。
Make Unconf Good	選択した物理デバイスのステータスを Unconfigured Good にします。 ステータスが Unconfigured Bad の物理デバイスに表示されます。
Prepare Removal	選択した物理デバイスの Power status を Powersave にします。 Power status が On、かつステータスが Unconfigured Good の物理デバイスに表示されます。
Undo Removal	選択した物理デバイスの Power status をオンにします。 Power status が Powersave の物理デバイスに表示されます。
Make Dive Offline	選択した物理デバイスをオフライン状態にします。 ステータスが Online の物理デバイスに表示されます。
Make Drive Online	選択した物理デバイスを Online 状態にします。 ステータスが Offline の物理デバイスに表示されます。
Rebuild Drive	選択した物理デバイスが組み込まれている VD のリビルドを開始します。 ステータスが Offline の物理デバイスに表示されます。
Mark as Missing	選択した物理デバイスを VD を構成している DG から除外します。 ステータスが Offline の物理デバイスに表示されます。
Replace Missing PD	PD Missing となっている DG に対象の物理デバイスを組み込みます。 Unconfigured Good の物理デバイスに表示されます。
Enclosure Affinity	本機能はサポートしていません。

2-9. Configuration Wizard

本 RAID コントローラに接続した物理デバイスを用いて VD を構築する機能です。本機能については、本書の「3 章(バーチャルドライブの作成)」を参照してください。

2-10. Physical View / Logical View

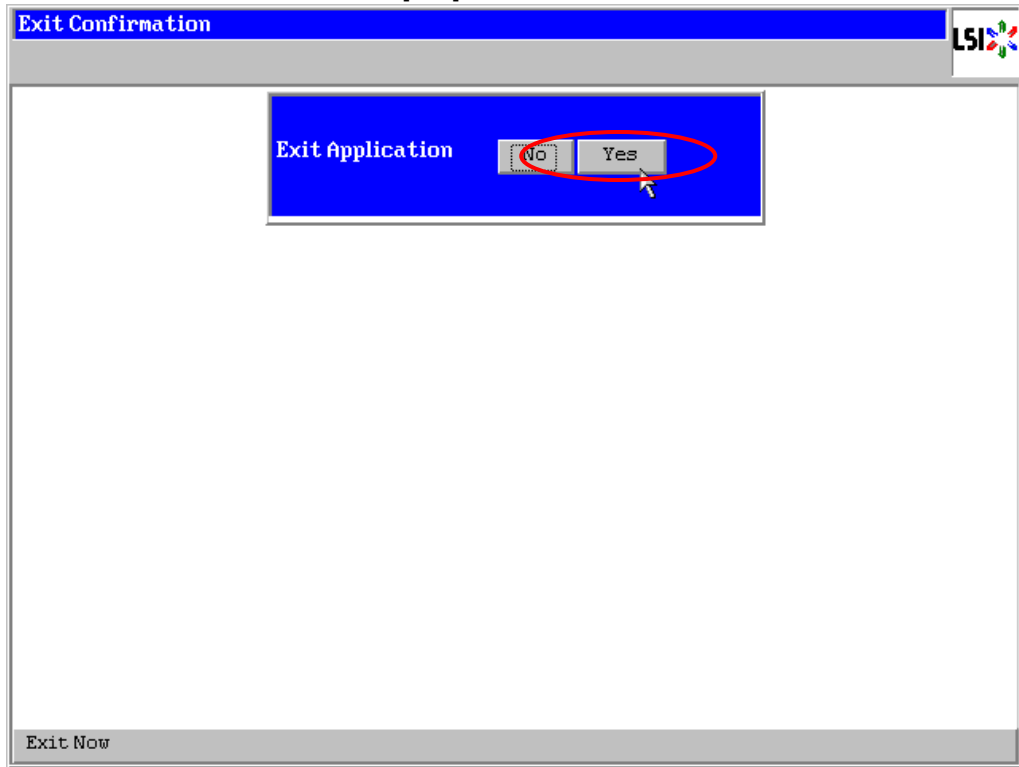
VD を構築している場合、WebBIOS トップ画面に DG が表示されます。[Physical View]をクリックすると、DG を構築している物理デバイスの情報が表示されます。[Logical View]をクリックすると、DG 内で構築されている VD が表示されます。

2-11. Events

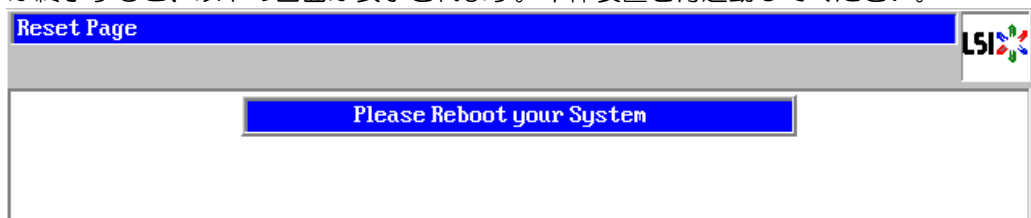
本 RAID コントローラでは Events 機能をサポートしていません。

2-12. Exit

WebBIOS トップ画面より[Exit]をクリックすると、WebBIOS を終了するための確認画面が表示されます。WebBIOS を終了する際は、以下の画面にて[Yes]をクリックしてください。



WebBIOS が終了すると、以下の画面が表示されます。本体装置を再起動してください。



重要

画面中に青いバーが表示される場合がありますが問題ありません。
そのまま再起動してください。

3. バーチャルドライブの作成

ここではWebBIOSを用いてバーチャルドライブ(VD)を作成する手順を説明します。VDを作成する場合は、以下の注意事項をお読みください。

- 1) DGを構成する物理デバイスは同一容量、同一回転、同一規格のものを使用してください
- 2) VDを構築した後、必ず整合性チェックを実施してください。
- 3) 本RAIDコントローラ配下のVDにOSをインストールする際は、OSインストール用のVDのみを作成してください。

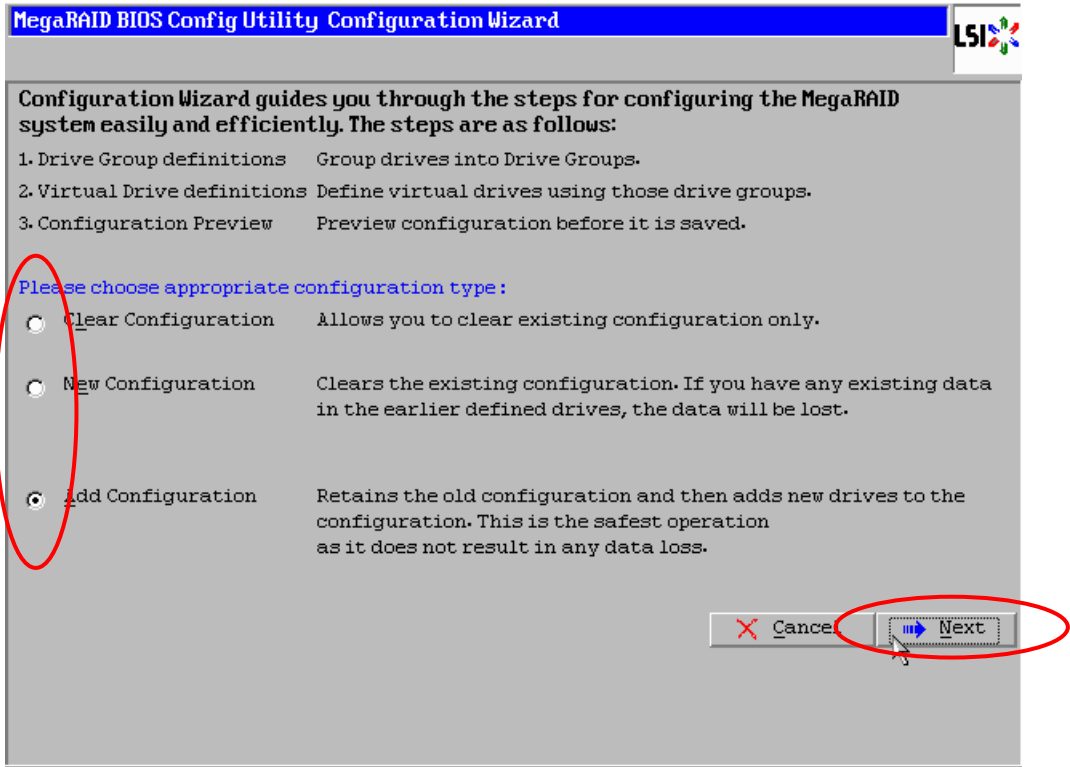


ヒント

VD構築後1回目の整合性チェックでは、不整合が多数検出される場合がありますが、異常ではありません。

3-1. Configuration Wizard

WebBIOS を起動し、トップ画面より[Configuration Wizard]をクリックすると、以下の画面が表示されます。
該当する操作を選択し、画面右下の[Next]をクリックしてください。



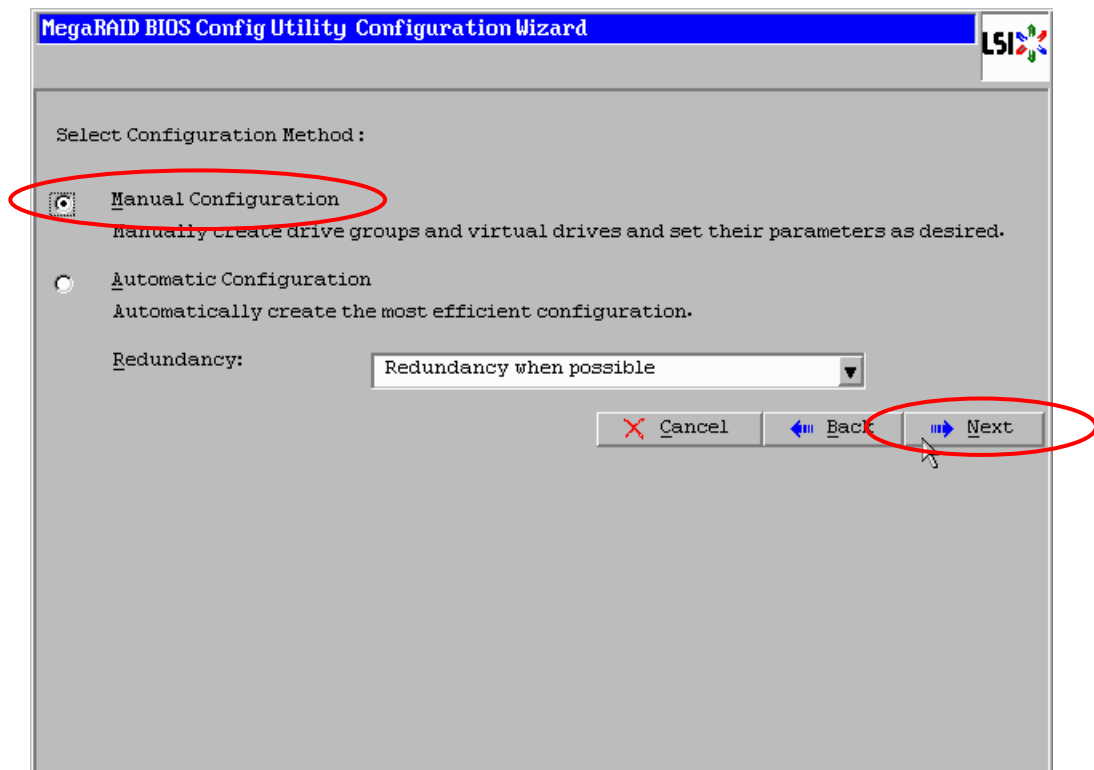
Clear Configuration	コンフィグレーション（RAID 情報）をクリアします。
New Configuration	コンフィグレーションをクリアし、新しい VD を作成します。
Add Configuration	既存 VD に加え、新たに VD を追加します。 新たに VD を追加可能ば場合に表示されます。



New Configurationで新たにVDを作成する場合、既存のVD情報は失われます。

[Add Configuration]を選択した場合、以下の画面が表示されます。

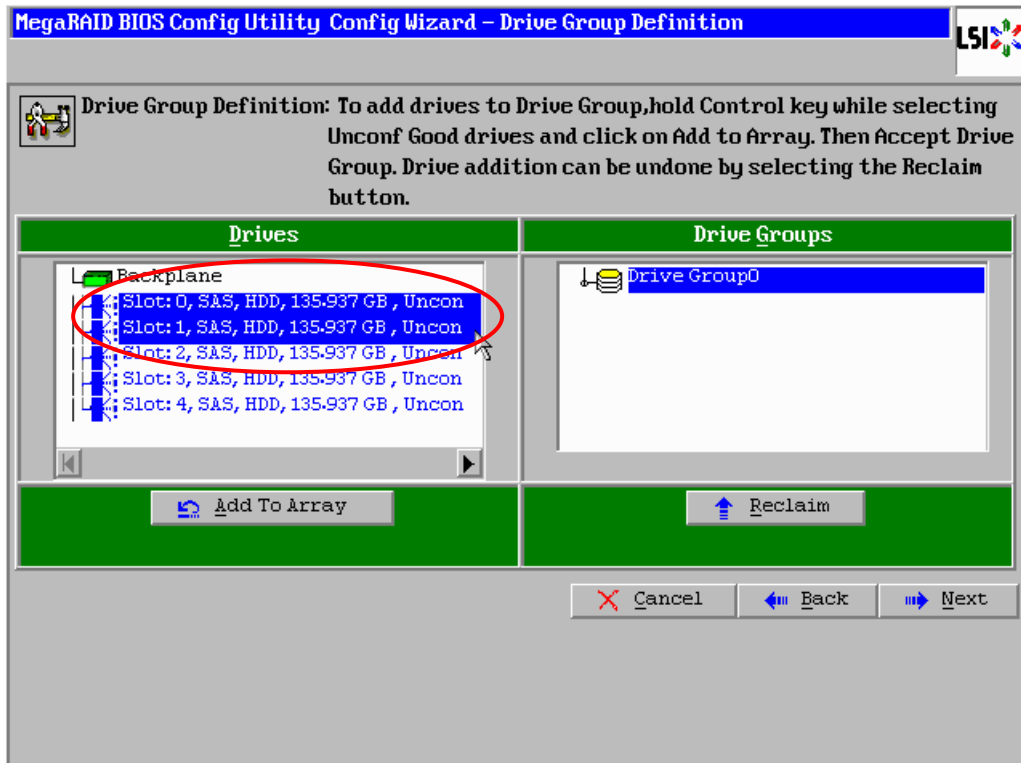
必ず[Manual Configuration]を選択して、[Next]をクリックしてください。



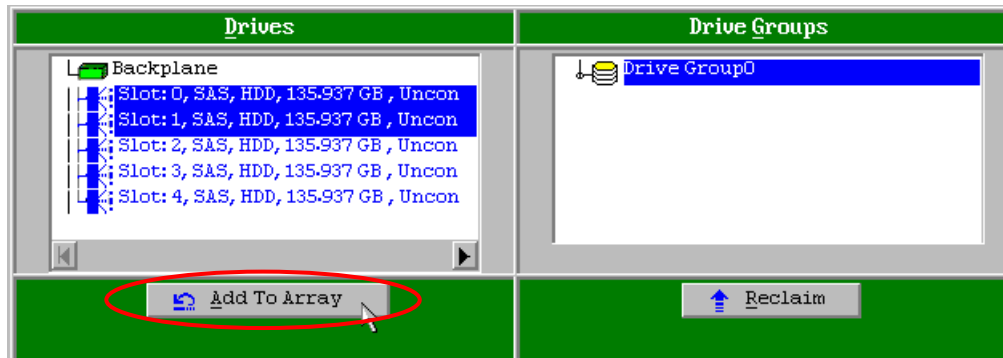
本RAIDコントローラでは“Automatic Configuration”機能はサポートしていません。使用しないでください。

複数台の物理デバイスをひとまとめの DG として定義します。

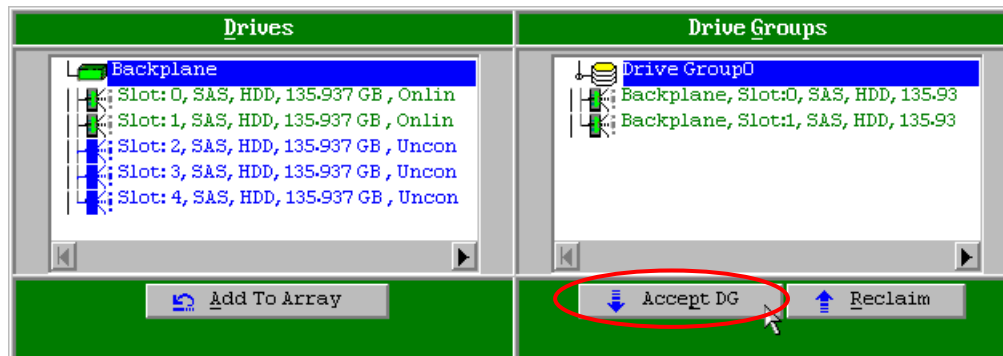
- ① DG を構成する物理デバイスを<Ctrl>キーを押しながらクリックすることで、複数台選択します。



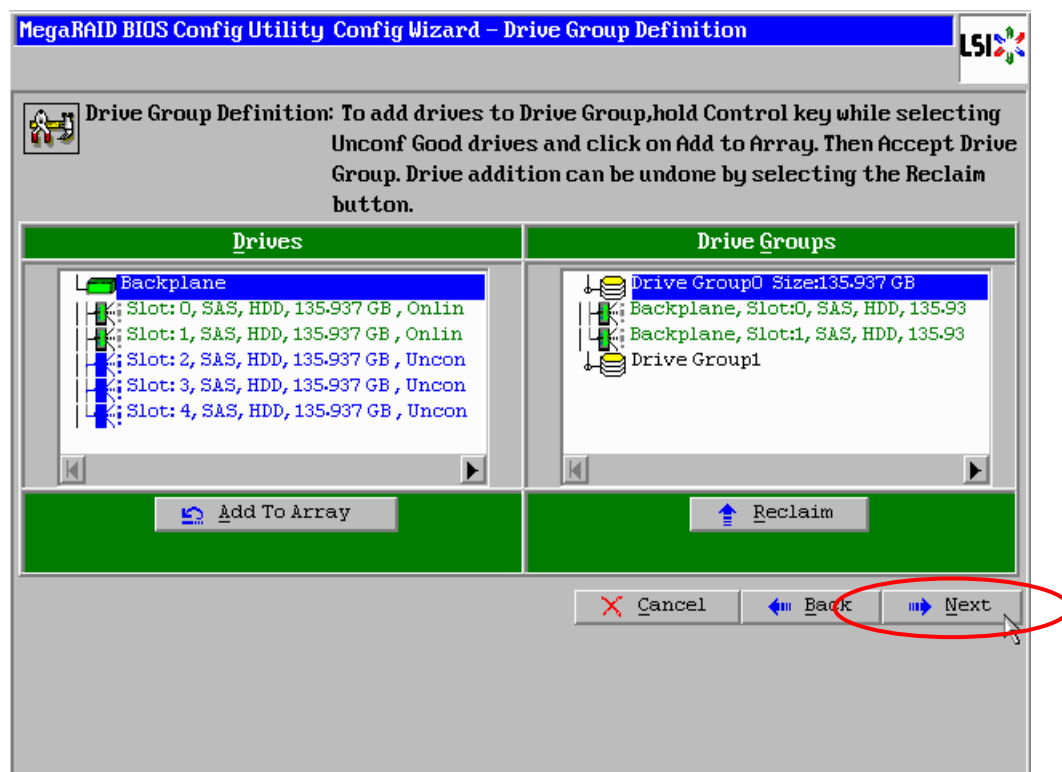
- ② 選択完了後、画面左下の[Add To Array]をクリックします。



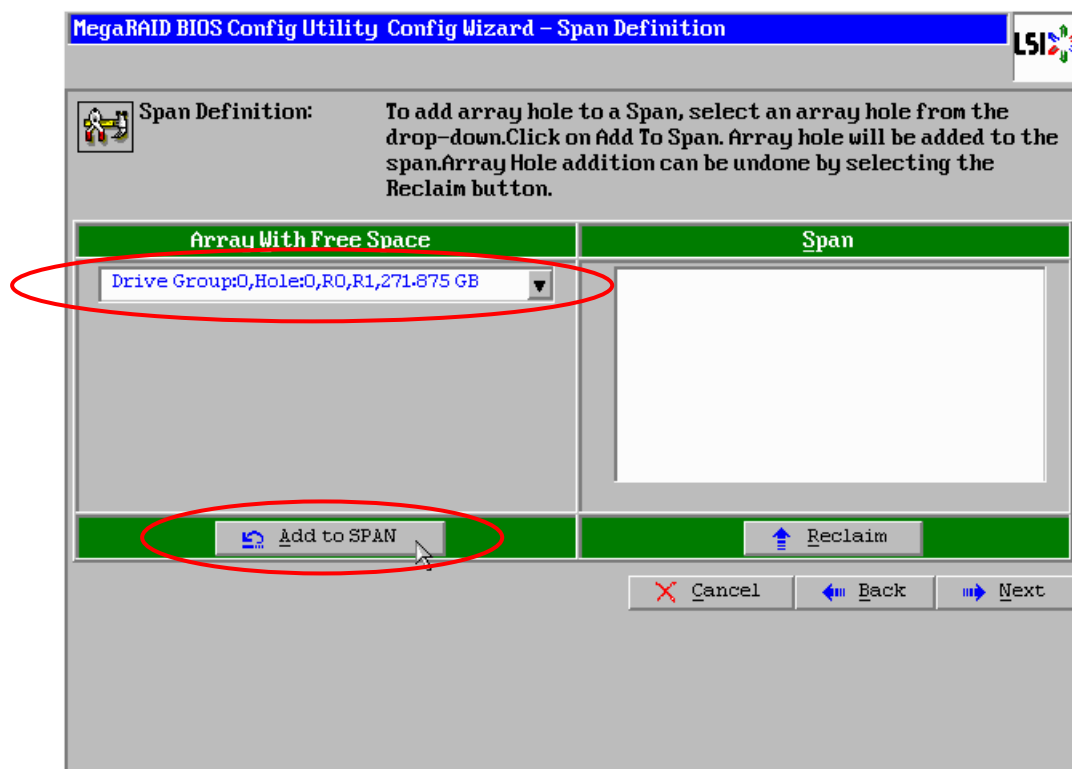
- ③ 画面右側 Disk Groups の欄に、新しい DG が設定されます。DG の確定するために、画面右下の [Accept DG]をクリックします。



- ④ DG 設定後、画面右下の [Next] をクリックします。

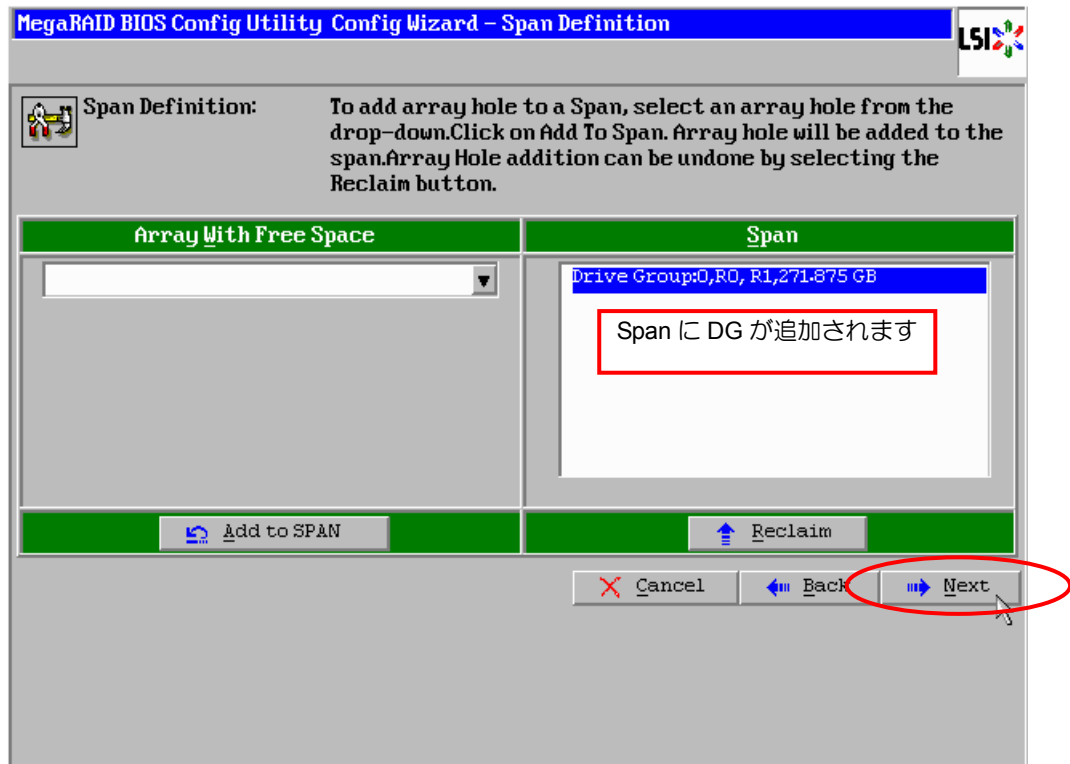


- ⑤ DG の設定後、スパン定義画面が表示されます。画面左側 Array With Free Space 欄から、VD を設定する DG を選択し [Add to SPAN] をクリックすると、画面右側 Span 欄に DG が設定されます。



RAID0,1を作成する場合は、スパン設定は1つのDGだけを設定します。複数のDGは同時に作成できません。

- ⑥ スパン設定完了後、画面右下の[Next]をクリックします。



- ⑦ 前画面の操作で作成した DG 内に VD を構築します。DG 確定後、VD 定義画面が表示されます。画面右側の中段の“NextLD,Possible RAID Levels”には、DG 内に構築可能な VD の RAID レベルおよび最大容量が表示されています。

例として、RAID1 で最大容量の 135.937GB の VD を構築します。

- ⑧ 画面左側 の設定項目欄へ必要なパラメータを入力します。
- ⑨ [Update Size]をクリックします。自動で最大容量が“Select Size”欄へ入力されます。
- ⑩ VD の設定完了後、画面中央下[Accept]をクリックします。

MegaRAID BIOS Config Utility Config Wizard - Virtual Drive Definition

RAID Level: RAID 1

Strip Size: 64 KB

Access Policy: RW

Read Policy: Normal

Write Policy: Write Through

IQ Policy: Direct

Drive Cache: Disable

Disable BGI: No

Select Size: 135.937 GB

Update Size

Accept Reclaim

Cancel Back Next

Virtual Drives

Next LD, Possible RAID Levels

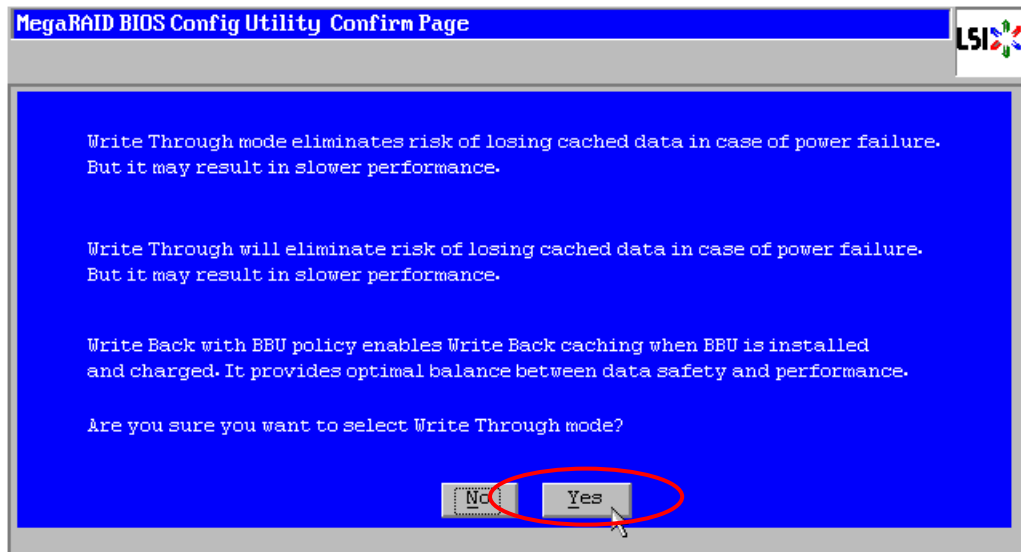
R0:271.875 GB R1:135.937 GB



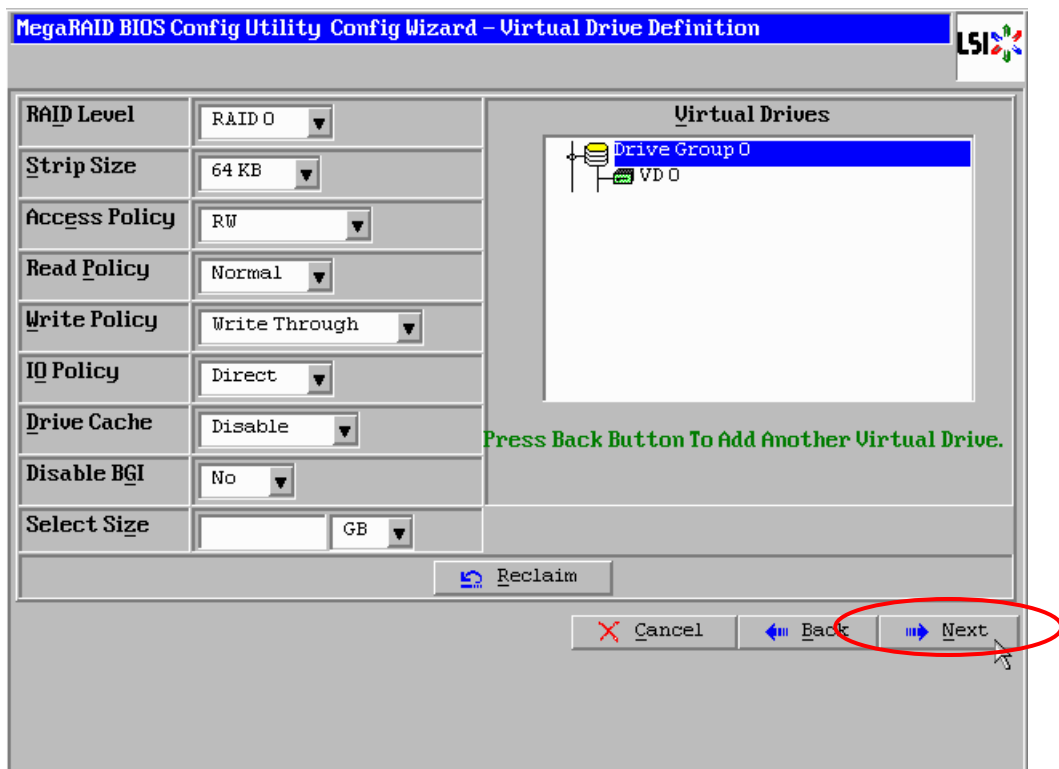
ヒント

最大容量以外の任意の容量のVDを構築する場合は、手動で“Select Size”欄へ容量を入力します。

- ⑪ キャッシュモードの確認画面が表示されますので、[Yes]をクリックします。



- ⑫ VD の設定完了後、[Next]をクリックします。



重要

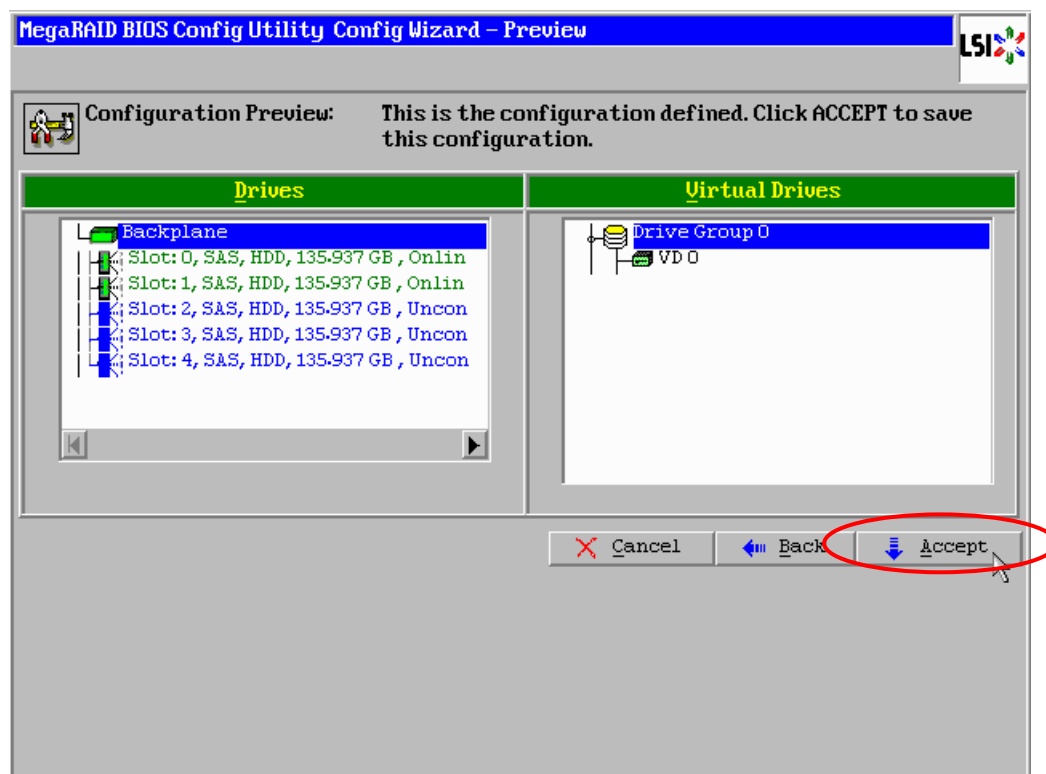
本RAIDコントローラは物理デバイスが2台構成のRAID1以外はサポートしていません。構成しないでください。



ヒント

- 続けてVDの設定を行う場合は、[Back]をクリックし⑤のスパン定義画面から同様の手順で設定を行います。
- 各RAID レベルの詳細は、本書の「2章（2.RAIDレベル）」を参照してください。

- ⑬ DG 内に VD が設定され、以下の画面が表示されます。設定した VD に誤りがなければ、画面右下の[Accept]をクリックします。



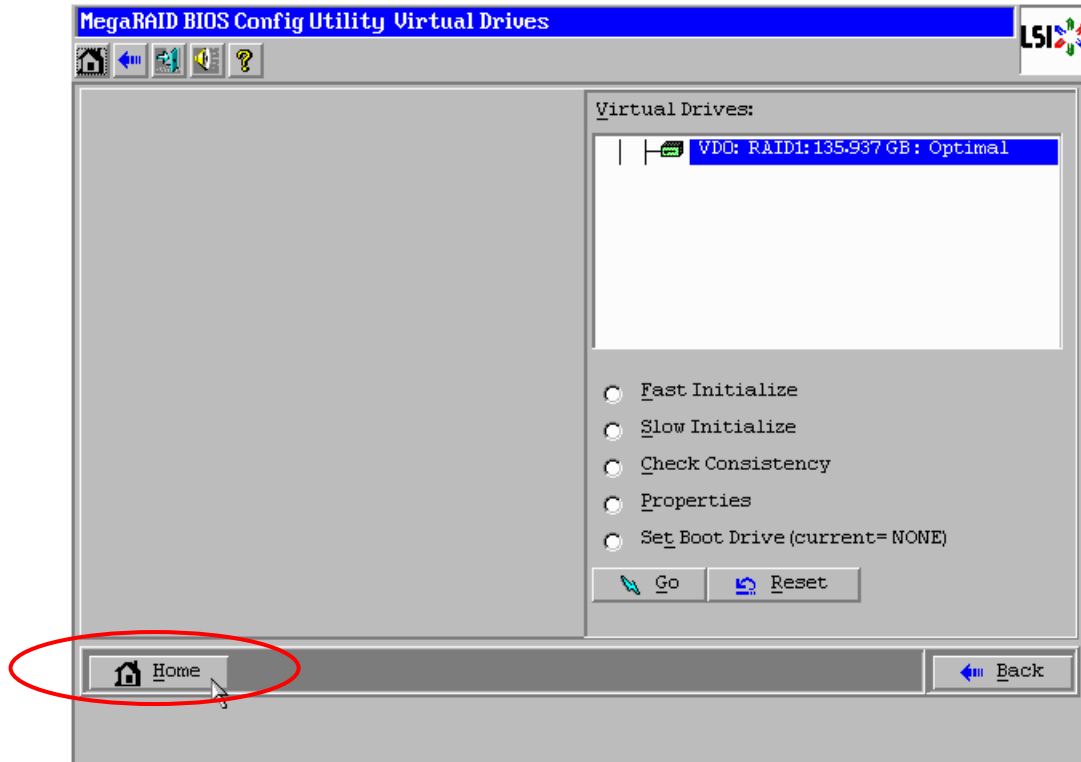
- ⑭ “Save this Configuration?” というメッセージが表示されますので、[Yes]をクリックします。
- ⑮ “Want to Initialize the New Virtual Drives?” と新規 VD に対しファストイニシャライズを実施するか否かを確認するメッセージが表示されます。ファストイニシャライズを実施する場合は[Yes]をクリックしてください。



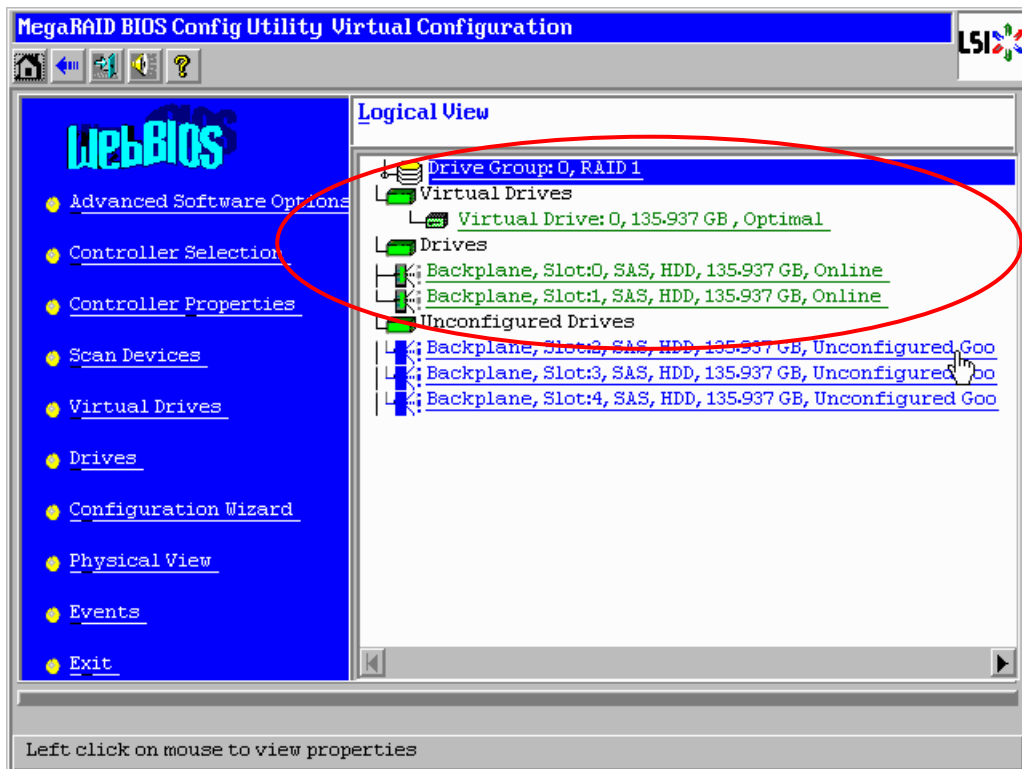
ヒント

- ここで実施されるイニシャライズはファストイニシャライズです。
- ファストイニシャライズを実行した場合は、パーティション情報が書かれている先頭セクタのみをクリアします。

- ⑯ ファストイニシャライズを実施した場合、“Drives”操作画面が表示されます。他の操作を行う必要が無い場合は、画面左下の[Home]をクリックしてください。



- ⑰ Home をクリックした場合、または⑧でファストイニシャライズを実施しなかった場合は WebBIOS トップ画面が表示され、画面右側に構築した VD が表示されます。



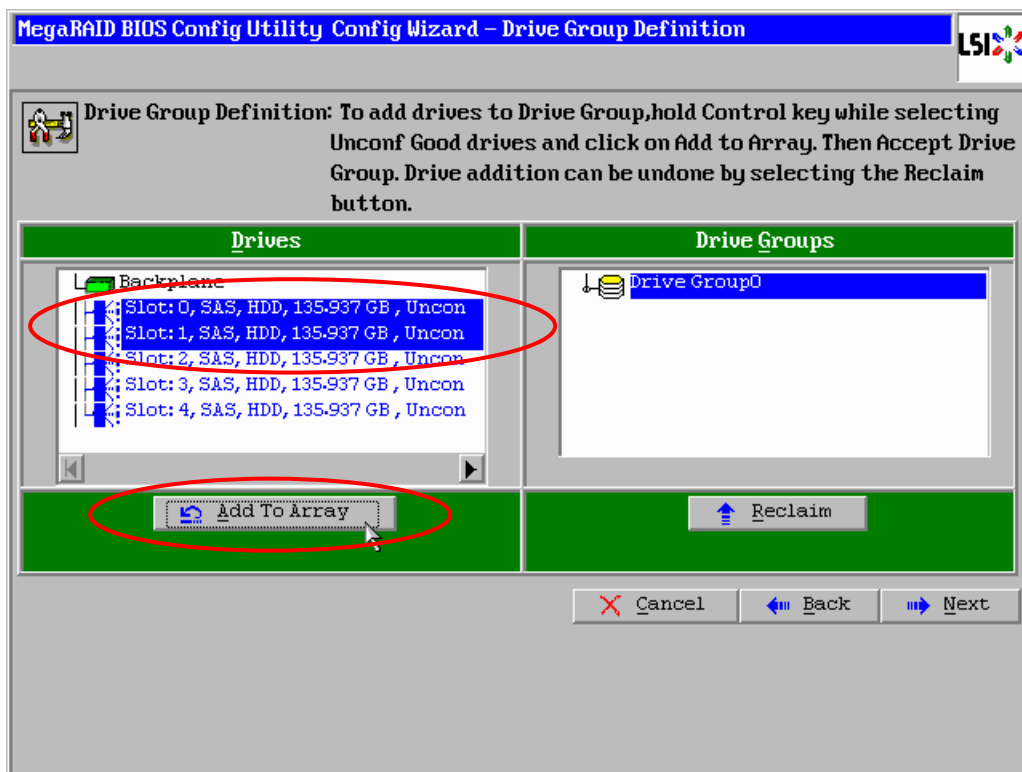
3-2. Configure SPAN

例として、4 台の物理デバイスを使用して RAID10(RAID1 のスパン構成) を構築する手順を以下に説明します。

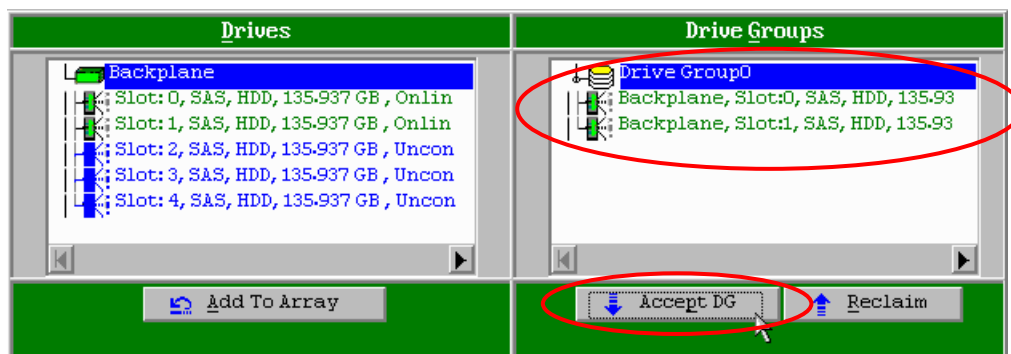


RAID00 の構成はサポートしていません。構築しないでください。

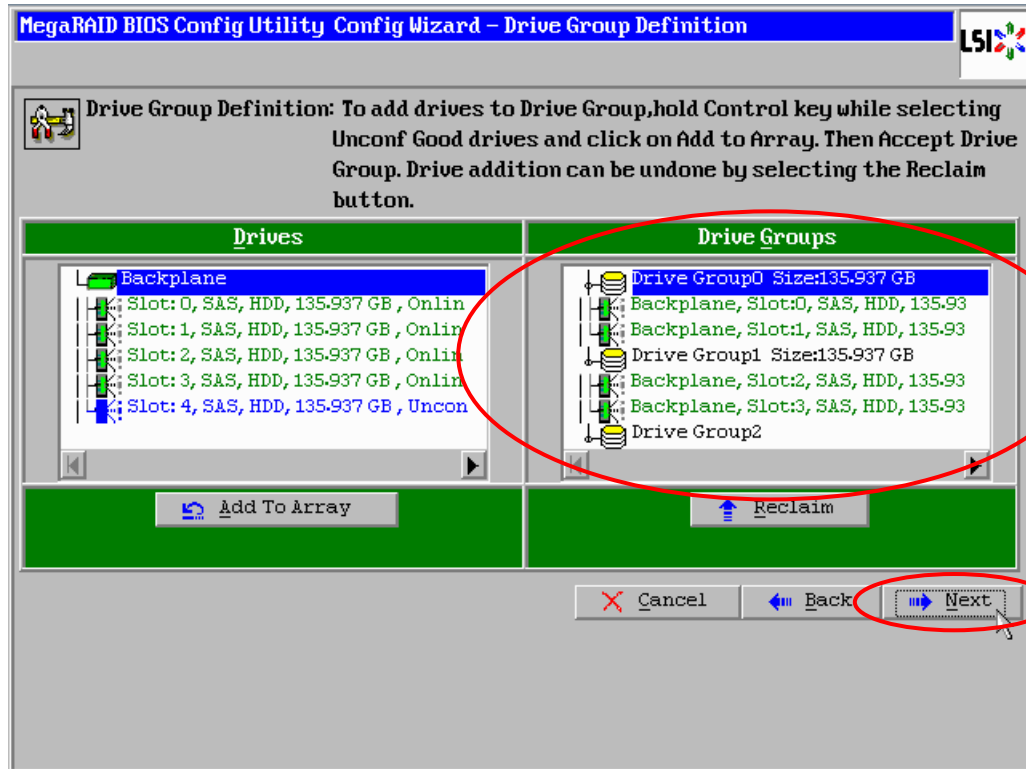
- ① WebBIOS トップ画面より[Configuration Wizard]をクリックして、ウィザードを起動します。
- ② DG を構成する物理デバイスを<Ctrl>キーを押しながらクリックして選択します。(例として 2 つの DG を構築しスパンします。)



- ③ 選択完了後、画面左下の[Add To Array]をクリックし、画面右側 Disk Groups 欄に DG が設定されたことを確認して、[Accept DG]をクリックして確定します。

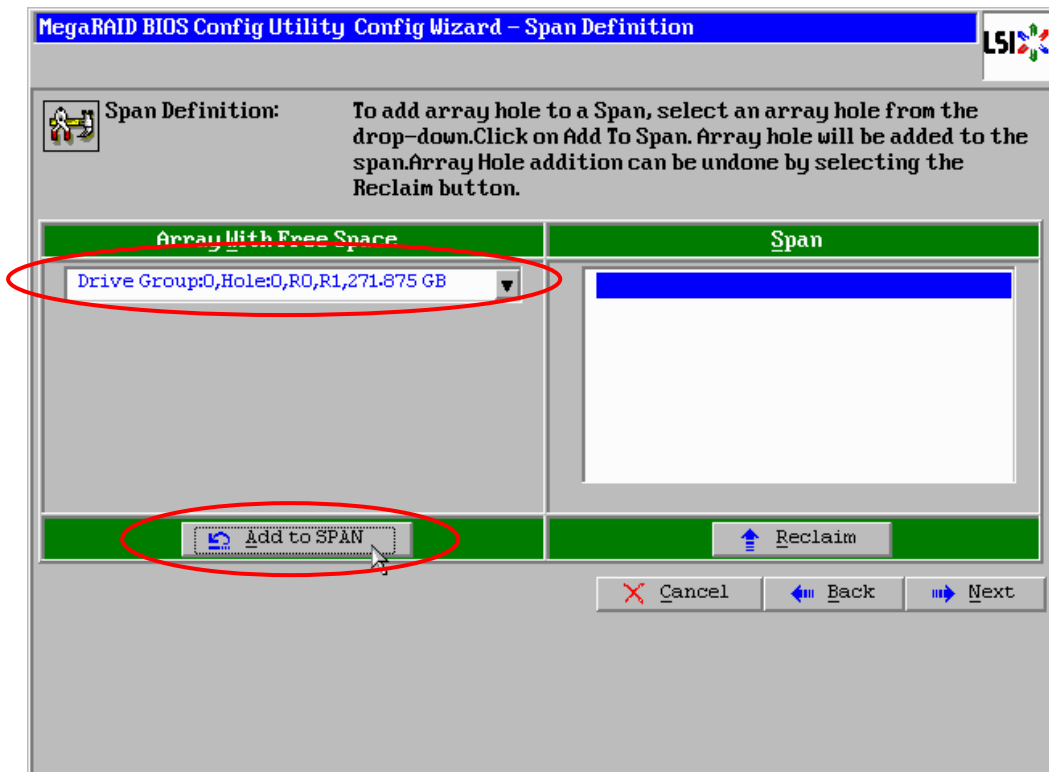


- ④ 画面右側 Disk Groups の欄に、新しい DG が構築されます。同様の手順で 2 つ目の DG を構築し、画面右下の[Next]をクリックします。

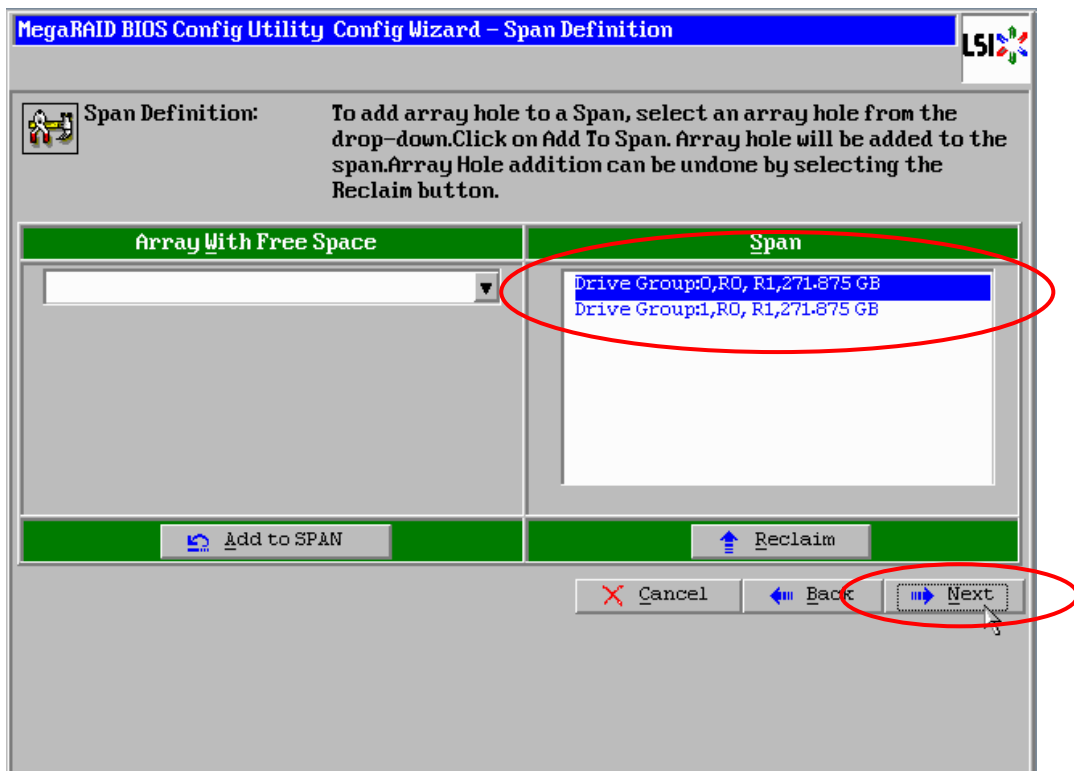


- RAID10のスパン構成を作成する場合は、同じ数量の物理デバイスで構成された複数のDGをスパン設定します。
- 異なる数量の物理デバイスで構成されたDGをスパン設定することはできません。

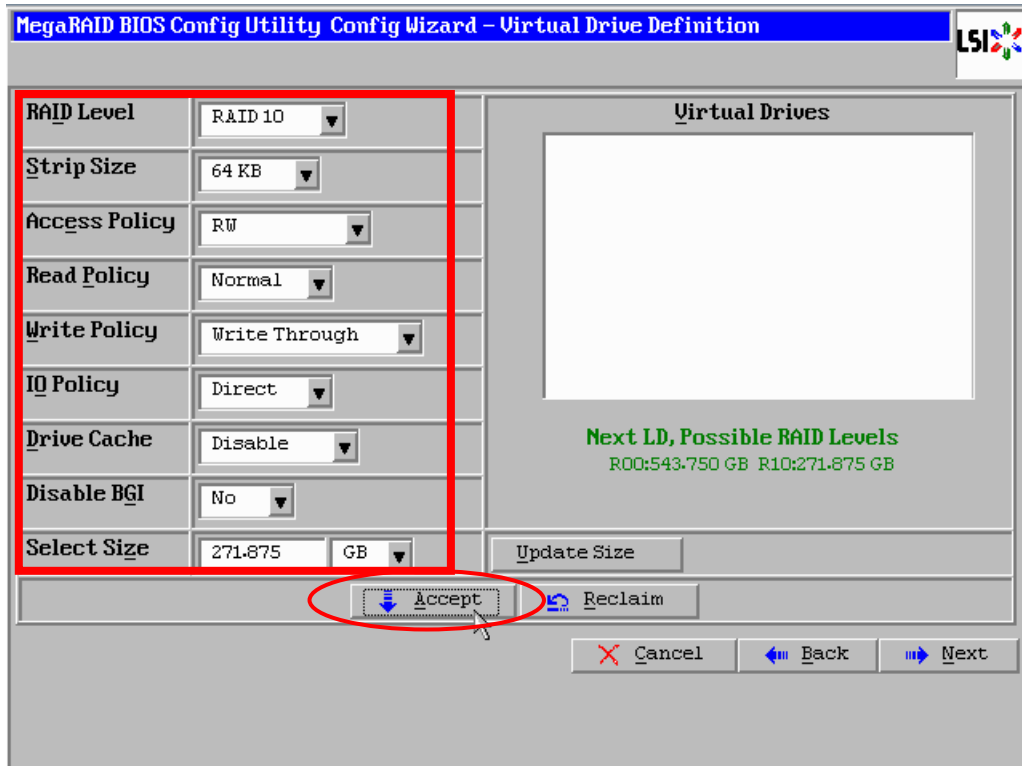
- ⑤ DG 確定後、以下のスパン定義画面が表示されます。
- ⑥ 画面左側 Array With Free Space 欄から、DG 0 を選択し[Add to SPAN]をクリックして、画面右側 Span 欄に DG を設定します。



- ⑦ 続けて DG1 を選択し[Add to SPAN]をクリックします。2 つの DG が画面右側 Span 欄に設定後、画面右下の[Next]をクリックします。

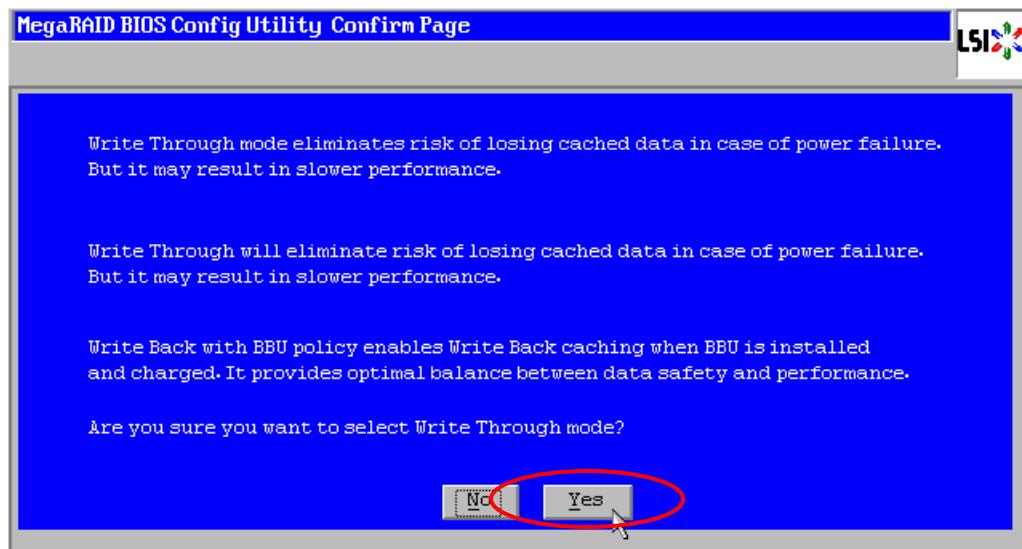


- ⑧ VD 定義画面が表示されます。画面左側へ必要なパラメータを入力し、画面中央下の[Accept]をクリックします。



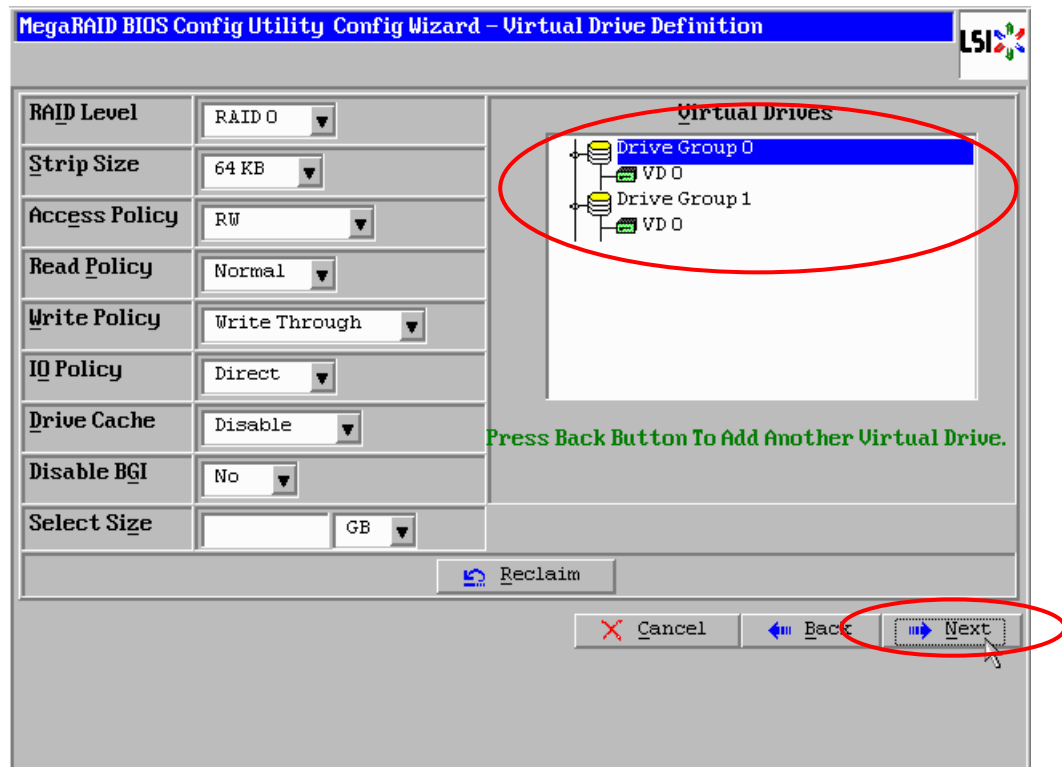
The screenshot shows the 'MegaRAID BIOS Config Utility Config Wizard - Virtual Drive Definition' window. On the left, a list of RAID parameters is shown, with a red box highlighting the 'RAID Level' (RAID 10), 'Strip Size' (64 KB), 'Access Policy' (RW), 'Read Policy' (Normal), 'Write Policy' (Write Through), 'IQ Policy' (Direct), 'Drive Cache' (Disable), 'Disable BGI' (No), and 'Select Size' (271.875 GB). On the right, the 'Virtual Drives' section shows 'Next LD, Possible RAID Levels' with 'R00:543.750 GB' and 'R10:271.875 GB'. At the bottom, the 'Accept' button is circled in red, and the 'Reclaim' button is also visible. Navigation buttons 'Cancel', 'Back', and 'Next' are at the bottom right.

- ⑨ キャッシュモードの確認画面が表示されますので、[Yes]をクリックします。



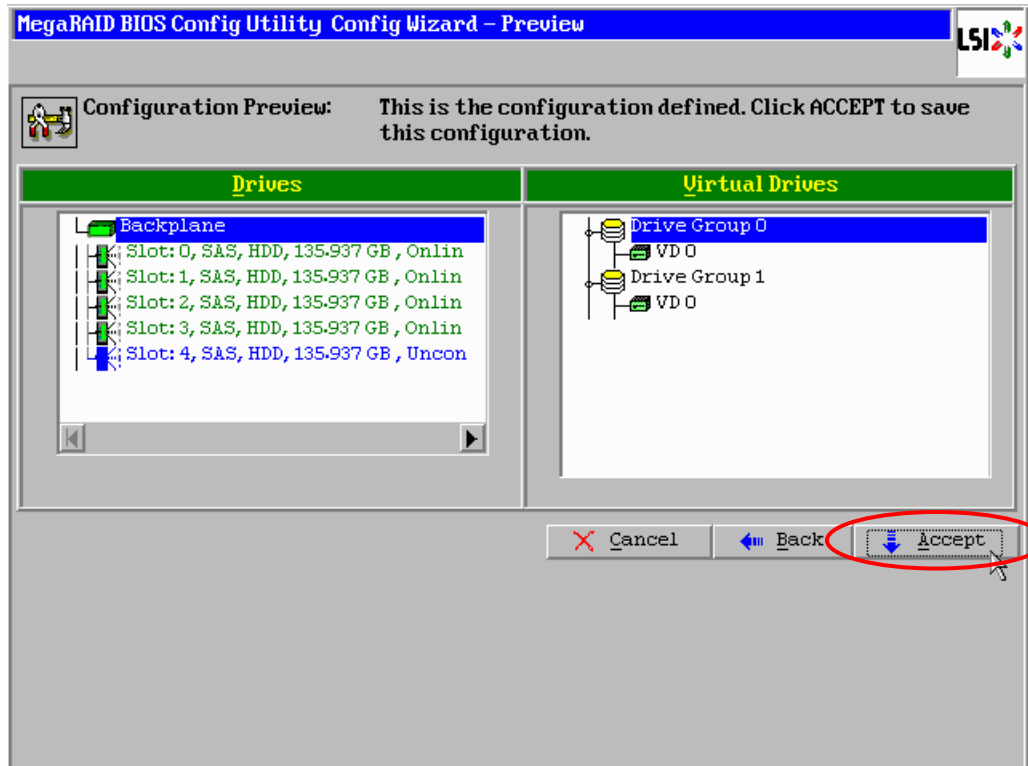
The screenshot shows the 'MegaRAID BIOS Config Utility Confirm Page' window. The background is blue with white text. It contains three paragraphs explaining the implications of Write Through mode and Write Back with BBU policy. The final question is 'Are you sure you want to select Write Through mode?'. At the bottom, the 'Yes' button is circled in red, and the 'No' button is also visible.

- ⑩ 画面右側の欄に、DG0 と DG1 がどちらも VD 0 に定義されていること確認し、画面右下の[Next]をクリックします。



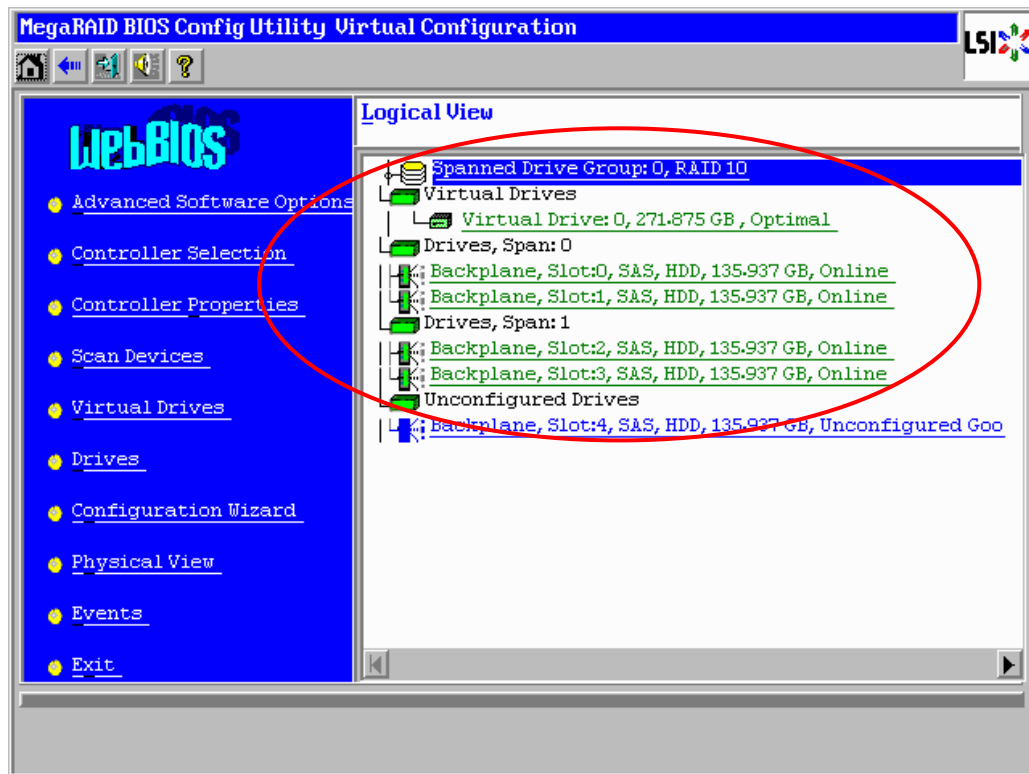
本 RAID コントローラは各 DG の物理デバイスが 2 台ずつの組み合わせの RAID10 以外はサポートしていません。構成しないでください。

- ⑪ "Preview"画面が表示されますので、設定した VD に誤りがなければ、画面右下の[Accept]をクリックします。



- ⑫ "Save this Configuration?" と確認のメッセージが表示されますので、[Yes]をクリックします。
- ⑬ "All data on the new Virtual Drives will be lost. Want to Initialize?" と構築した VD に対してファストイニシャライズを実施するか否かを確認するメッセージが表示されます。ファストイニシャライズを実施する場合は[Yes]をクリックしてください。
- ⑭ ファストイニシャライズを実施した場合、"Drives"操作画面が表示されます。他の操作を行う必要が無い場合は、画面左下の[Home]をクリックしてください。

- ⑮ Home をクリックした場合、または⑧でファストイニシャライズを実施しなかった場合はWebBIOS
トップ画面が表示され、画面右側に構築した VD が表示されます。



3-3. Virtual Drive Definition 設定項目

「Virtual Drive Definition」は「Configuration Wizard」でVDを作成する際に設定できる項目です。

設定項目	パラメータ	備考
RAID Level	RAID0 / RAID1 / RAID00 / RAID10	RAID00 はサポートしていません。 RAID00 を選択しないでください。
Strip Size	8KB / 16KB / 32KB / 64KB	推奨設定値: 64KB
Access Policy	RW / Read Only / Blocked	推奨設定値: RW
Read Policy	Normal	
Write Policy	Write Through	WriteThrough：ライトスルー
IO Policy	Direct	
Disk Cache Policy	NoChange / Enable / Disable	推奨設定値: Disable
Disable BGI	No / Yes	Disable BGI 機能はサポートしていません。 Yes を設定しないでください。



ヒント

各RAID レベルの詳細は、本書の「2章（2.RAID レベル）」を参照してください。

ディスクキャッシュ設定（Disk Cache Policy）には、以下のモードがあります。ご使用の環境に合わせて設定してください。

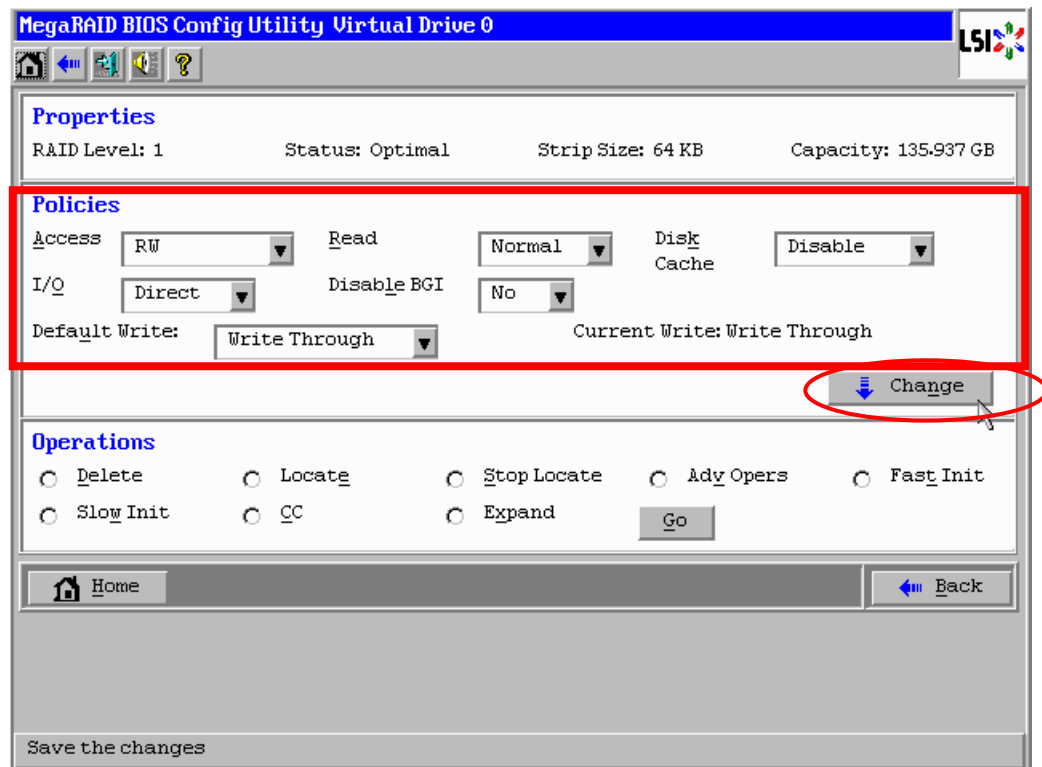
NoChange	<ul style="list-style-type: none"> 物理デバイスが持つデフォルトのライトキャッシュの設定を使用するモードです。 デフォルトの設定値は、弊社出荷時の設定と異なる場合がありますため、本モードに設定しないでください。
Enable	<ul style="list-style-type: none"> 物理デバイスのライトキャッシュを常に使用するモードです。 本モードに設定する場合は、必ず無停電電源を使用してください。
Disable	<ul style="list-style-type: none"> 物理デバイスのライトキャッシュを使用しないモードです。 性能は上記のEnable設定と比べると劣りますが、データ保持の観点から最も安全性が高いモードです。 データ保持の安全性の観点から、本モードに設定することを推奨しています。



重要

- ディスクキャッシュの設定をNoChangeとした場合、物理デバイスのデフォルトの設定値は、弊社出荷時の設定と異なる場合がありますため、本モードには設定しないでください。
- ディスクキャッシュ設定をEnableにすると、物理デバイスのライトキャッシュを使用します。このため、停電時に物理デバイスのキャッシュメモリ内のデータが消えてしまう場合があります。
- 物理デバイスのライトキャッシュを使用する場合は、必ず無停電電源装置(UPS)を使用してください。

VD 作成後に設定を変更する場合は WebBIOS トップ画面で[Virtual Drives]をクリックし、Policies 枠内の設定を変更した後、[Change]ボタンをクリックしてください。

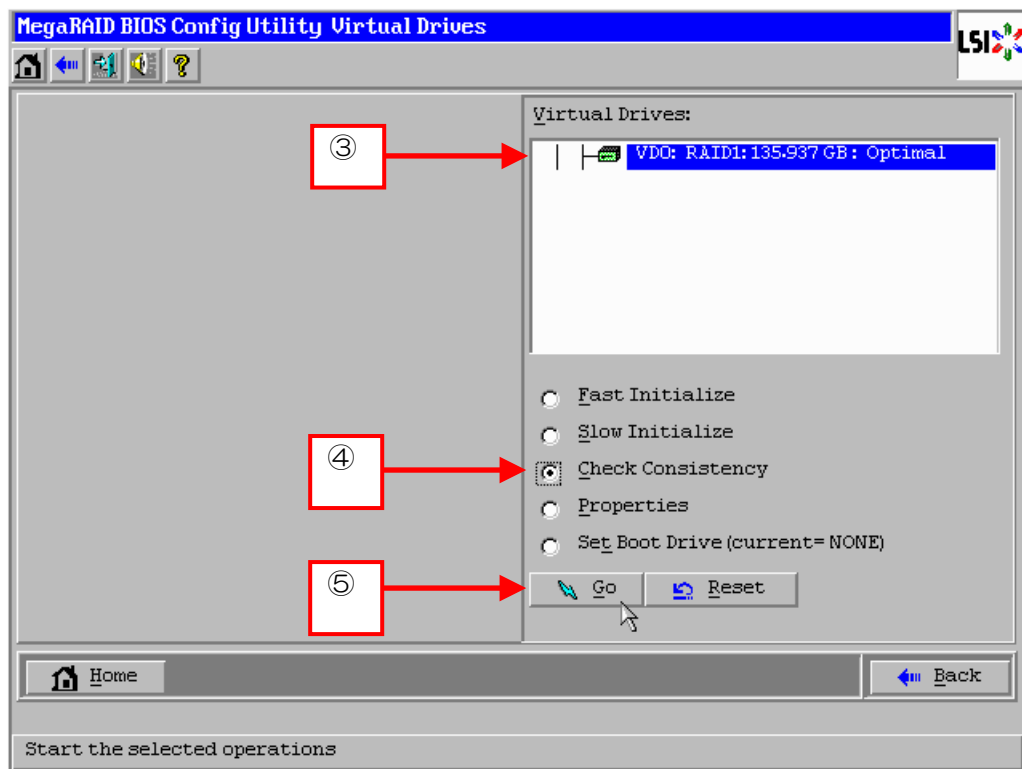


4. 各種機能操作方法

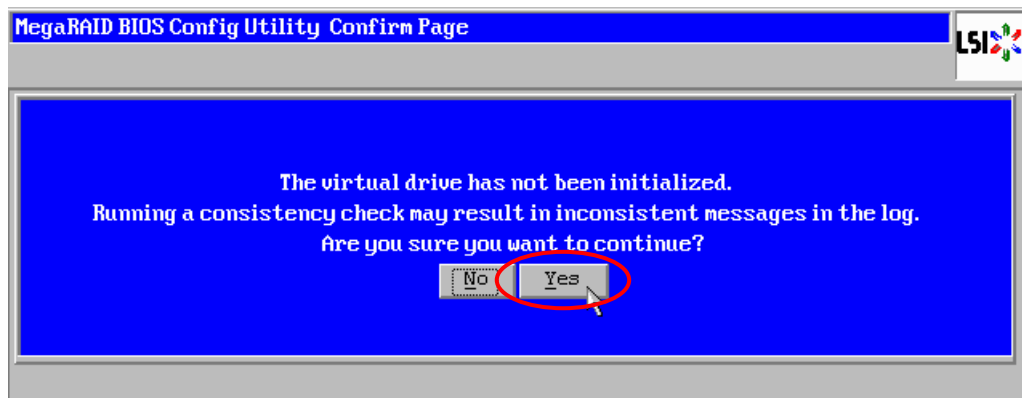
4-1. 整合性チェック（Check Consistency）機能

整合性チェック(Check consistency)はバーチャルドライブ(VD)の整合性をチェックするための機能です。WebBIOS では以下の手順で実施してください。

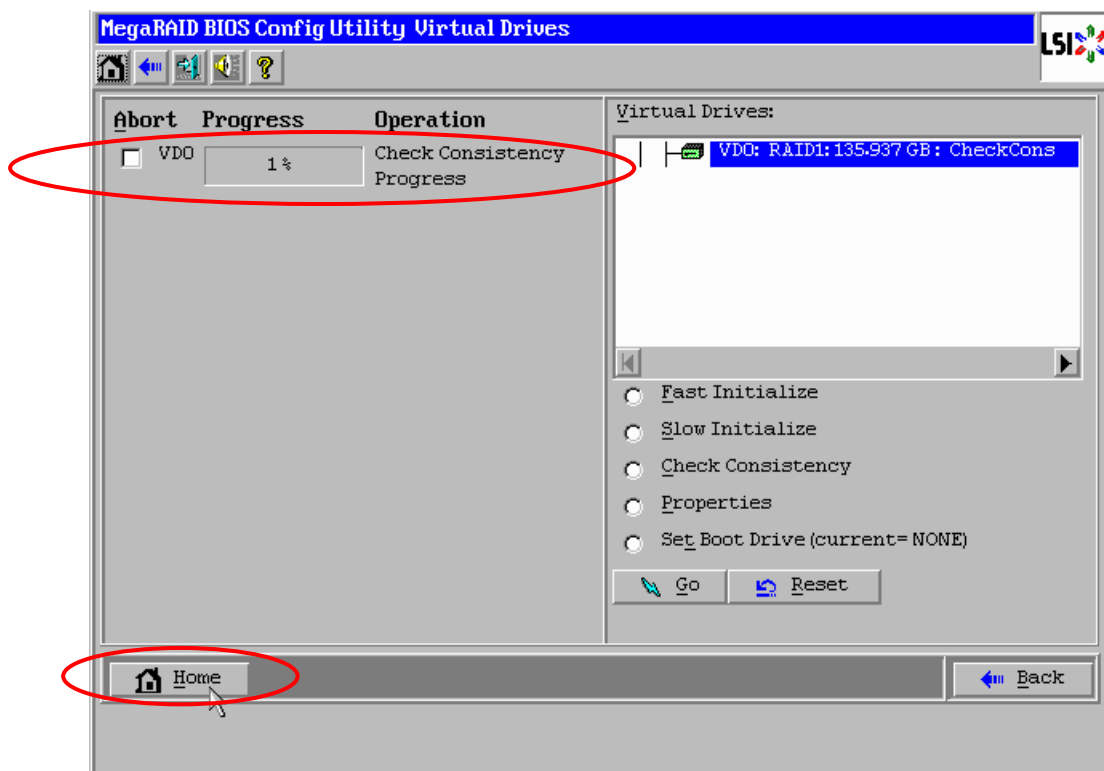
- ① WebBIOS を起動します。
- ② WebBIOS トップ画面より、[Virtual Drives]をクリックします。
- ③ Virtual Drives 画面右上より、整合性チェックを実行する VD を選択します。
- ④ Virtual Drives 画面右下より、Check Consistency チェック欄をクリックします。
- ⑤ チェックマークを確認した後、[Go]をクリックします。



- ⑥ VD 構築後 1 回目の Consistency Check に対しては、以下の警告文が表示される場合があります。Consistency Check を行う場合は、[Yes]をクリックしてください。このときに不整合が多数検出される場合がありますが、故障ではありません。



- ⑦ Virtual Drives 画面左に、Check Consistency の進捗が表示されます。
 ⑧ Virtual Drives 画面左下の[Home]をクリックして、トップ画面に戻ってください。



VDを作成した後、1 回目を実施する整合性チェックでは未使用領域の整合性が取れていない可能性があるため、不整合箇所を多数検出し、警告ログが登録される可能性があります。

4-2. マニュアルリビルド機能

故障した物理デバイスをホットスワップ（活線挿抜）で交換することで、リビルドを行うことができます。本体装置の電源をオフにしてから物理デバイスを交換した場合、自動的にリビルドを開始しません。その場合には、以下に説明するマニュアルリビルド機能を用いて VD を復旧してください。

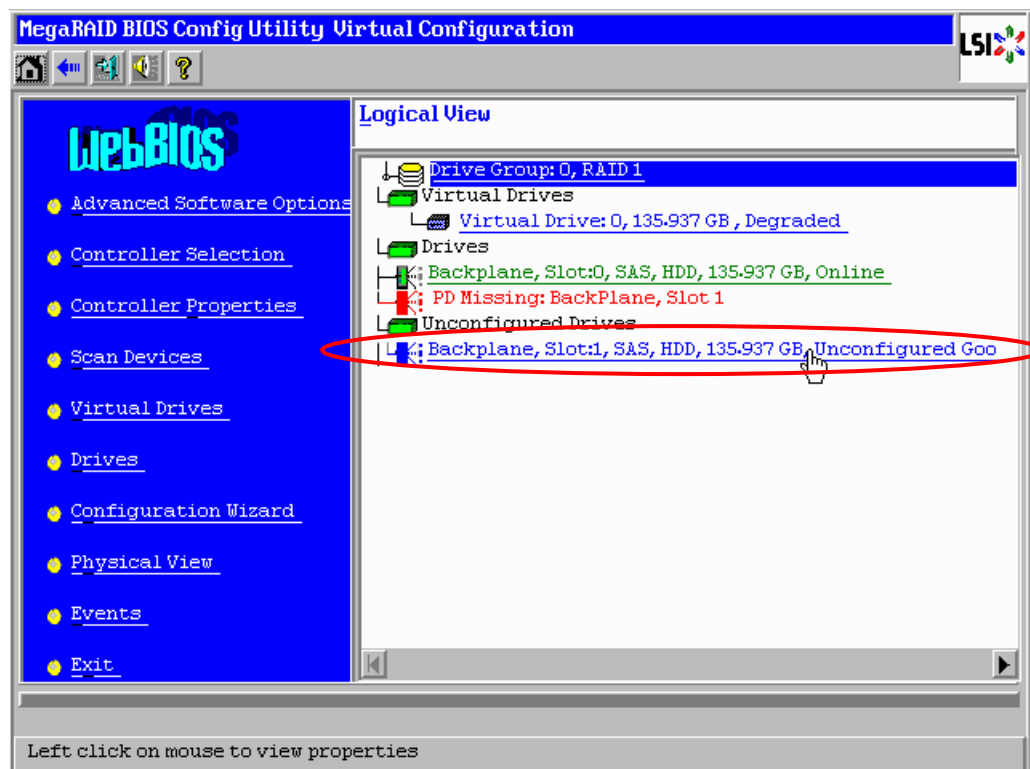


重要

- ホットスワップで物理デバイスを交換してリビルドする場合は、OSまたはWebBIOSを立ち上げた状態でディスクを交換してください。
- リビルドの進捗はUniversal RAID Utilityの画面で確認するか、あるいはWebBIOSのトップ画面でリビルド中のVDをクリックすることで確認できます。

物理デバイス 2 台を用いて RAID5 の VD を作成している環境において、物理デバイスが 1 台故障したケースを例に説明します。今回は活線交換を行わず装置の電源をオフにしてから故障した物理デバイスを交換しているため、オートリビルド機能が動作しない場合があります。その場合は、以下で説明するマニュアルリビルド機能を用いて VD を復旧します。

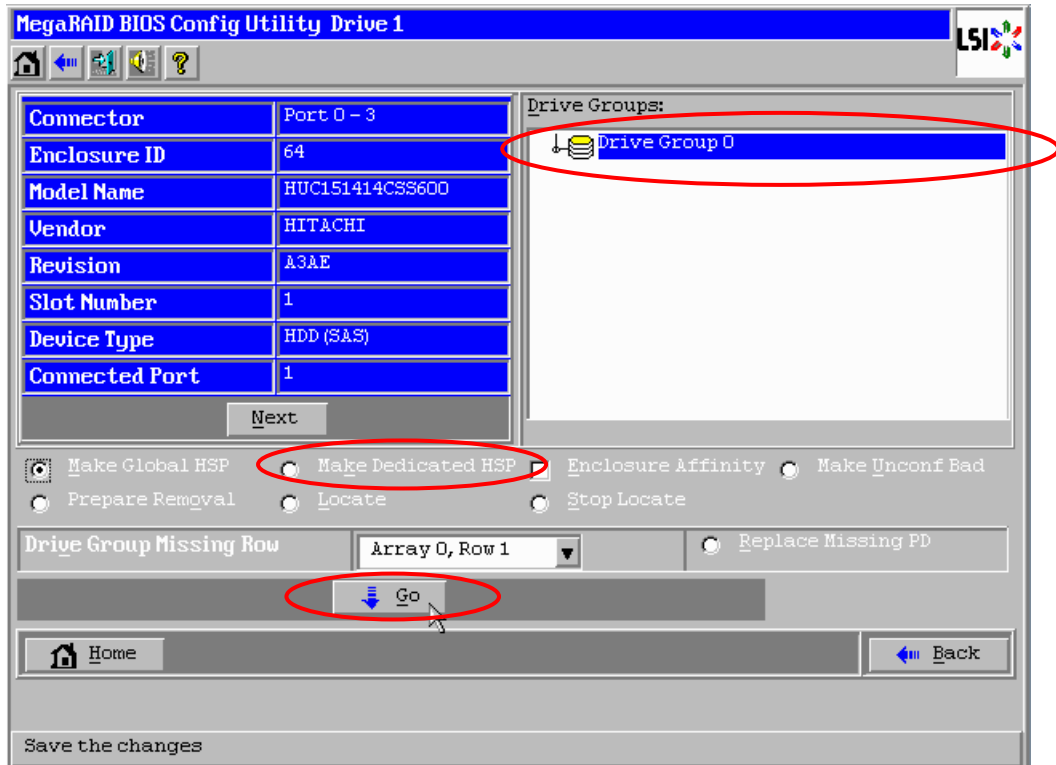
- ① WebBIOS を起動します。トップ画面右側の交換した物理デバイスのステータスが“Unconfigured Good”となっていることを確認してください。例ではスロット番号 2 の物理デバイスを交換しています。
- ② トップ画面右側より、新しく接続した物理デバイス(ここではスロット番号 1 の物理デバイス)をクリックします。



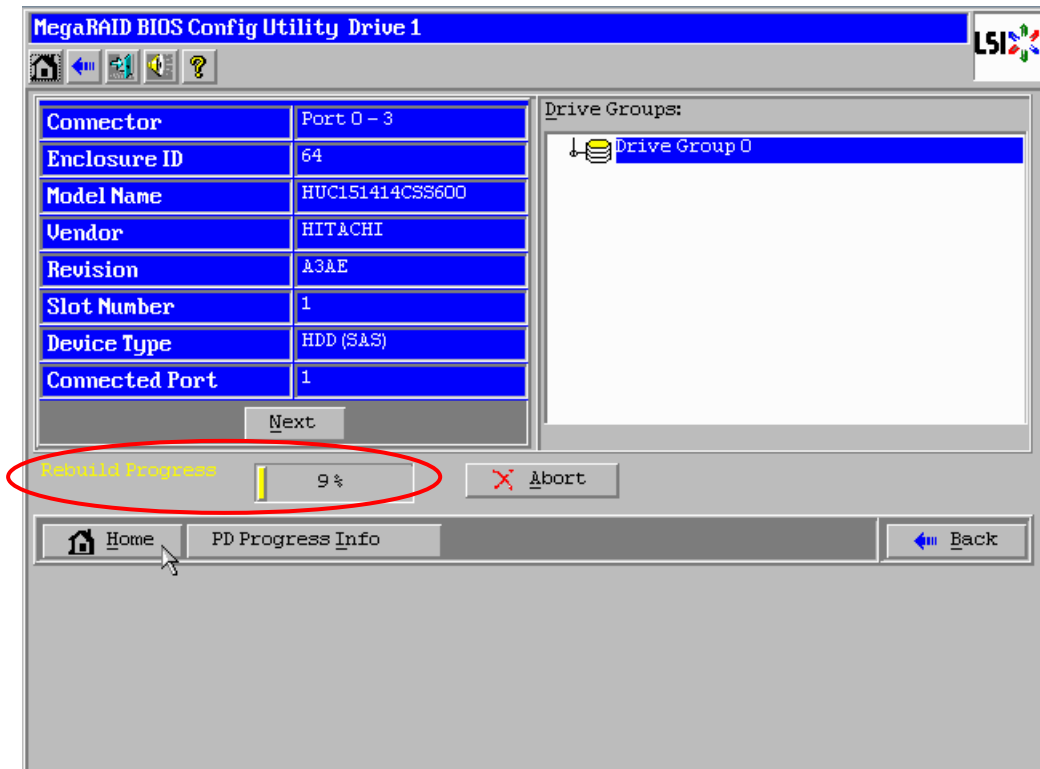
ヒント

PD Missing:BackPlane,Slot1という表示は、「スロット番号1に取り付けられていたVDを構成する物理デバイスが存在していない、あるいは構成から外されている」ことを示しています。

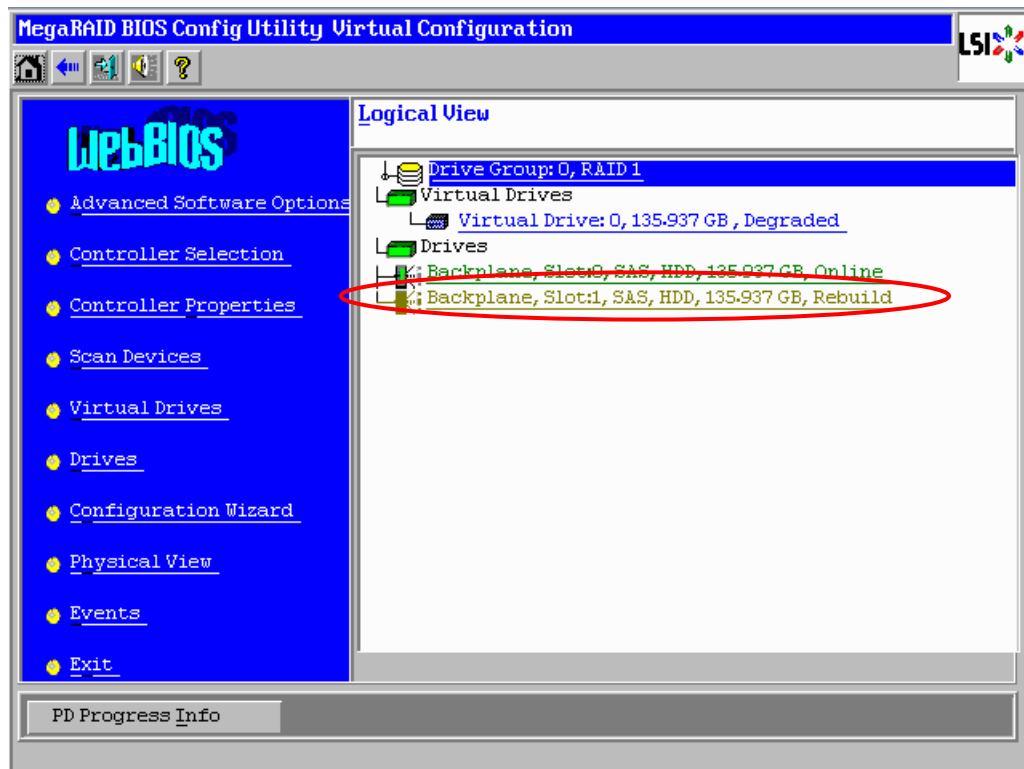
- ③ 物理デバイスのプロパティ画面が表示されます。
- ④ “Drive Groups”の中からリビルドしたい DG を選択して”Make Dedicated HSP”をチェックし、画面中央下の[Go]をクリックします。



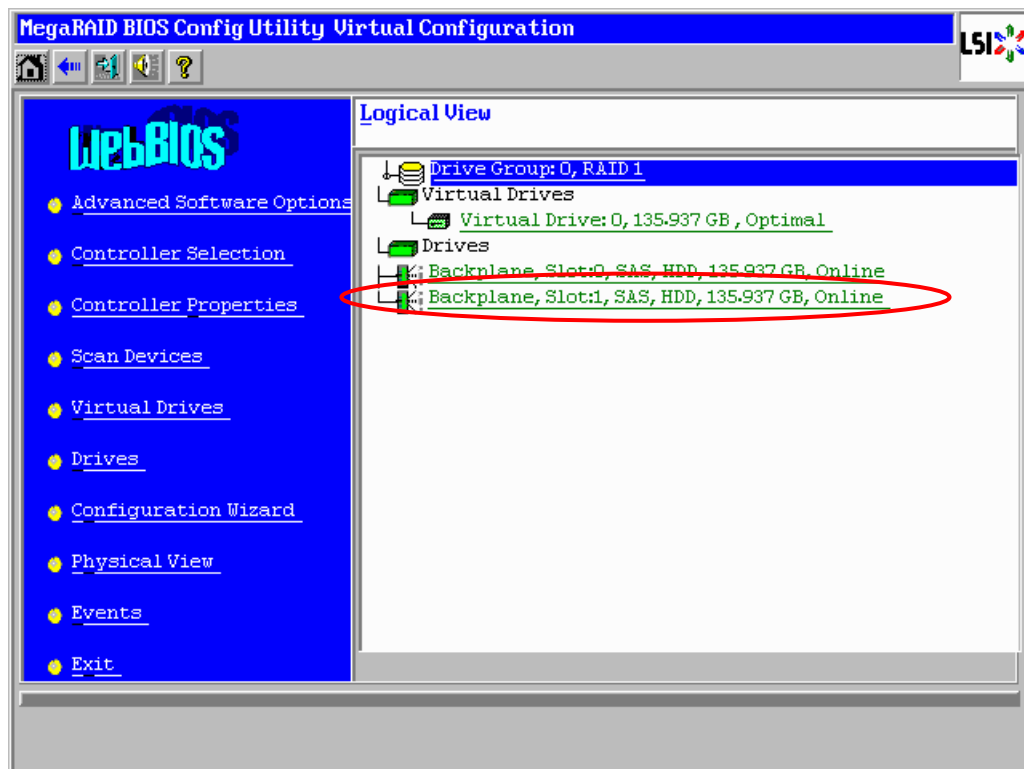
- ⑤ リビルドの進捗が画面下に表示されます。[Home]を押してトップ画面に戻ってください。



- ⑥ リビルド中、トップ画面は以下のように表示されます。リビルド中の物理デバイスをクリックするとリビルドの進捗画面が表示されます。



- ⑦ リビルドが完了するとリビルドしていた物理デバイスのステータスは Online になり、VD のステータスは Optimal になります。

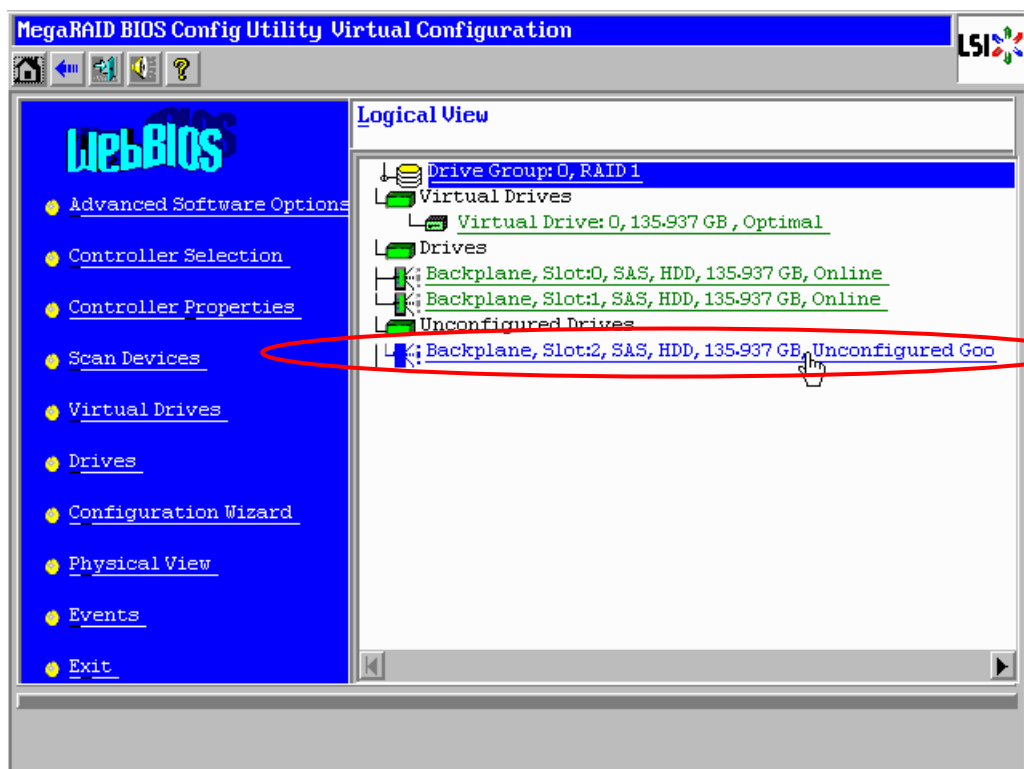


4-3. ホットスペア

ホットスペアとは、冗長性のある RAID レベルで構成された論理ドライブ配下の物理デバイスに障害が発生した場合に、代わりに用意された予備の物理デバイスです。物理デバイスの障害を検出すると、障害を検出した物理デバイスを切り離し(オフライン)、ホットスペアを使ってリビルドを実行します。

物理デバイス 3 台を用いて、RAID5 の VD を構築している環境において新たに物理デバイスを追加し、その物理デバイスをホットスペアに設定するケースを例に説明します。

- ① WebBIOS を起動します。トップ画面右側において、追加した物理デバイスのステータスが"Unconfigured Good"であることを確認します。
- ② トップ画面右側より、新しく接続した物理デバイス(この例ではスロット番号 3 の物理デバイス)をクリックします。

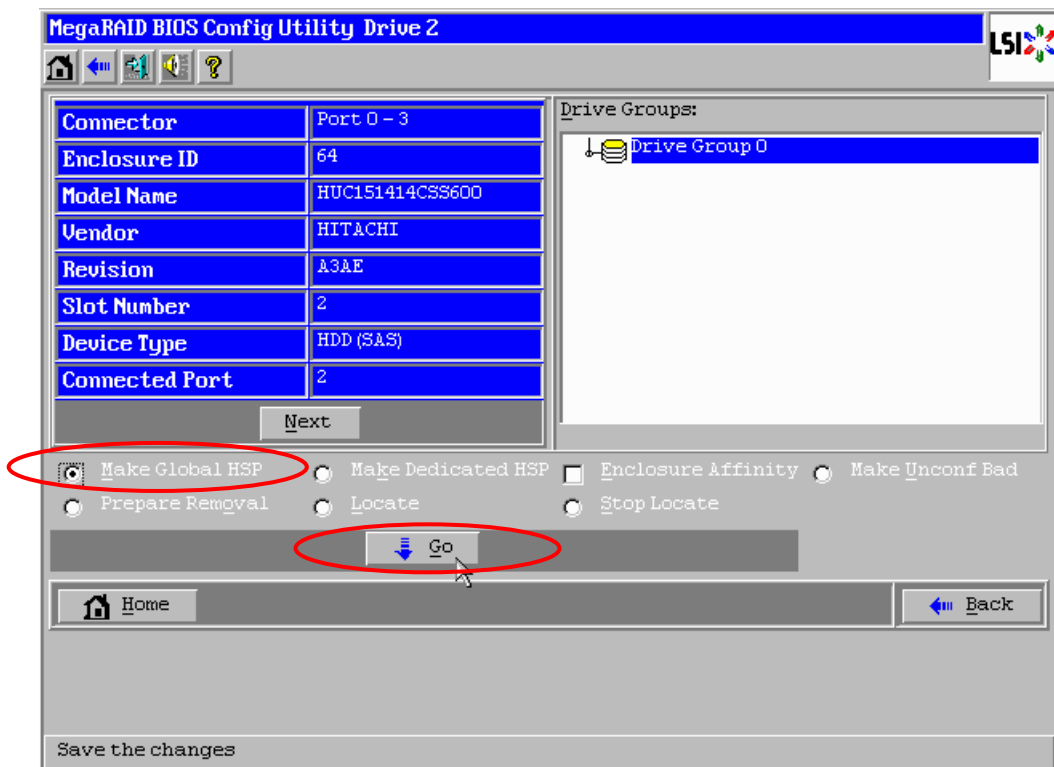


- ③ 物理デバイスのプロパティ画面が表示されます。
- ④ ホットスペアの設定には、以下の2種類があります。いずれかを選択し、作成してください。

Global HSP	全ての DG に対し使用可能なホットスペアです。
Dedicated HSP	特定の DG に対し使用可能なホットスペアです。設定する際には、使用する先の DG を指定する必要があります。

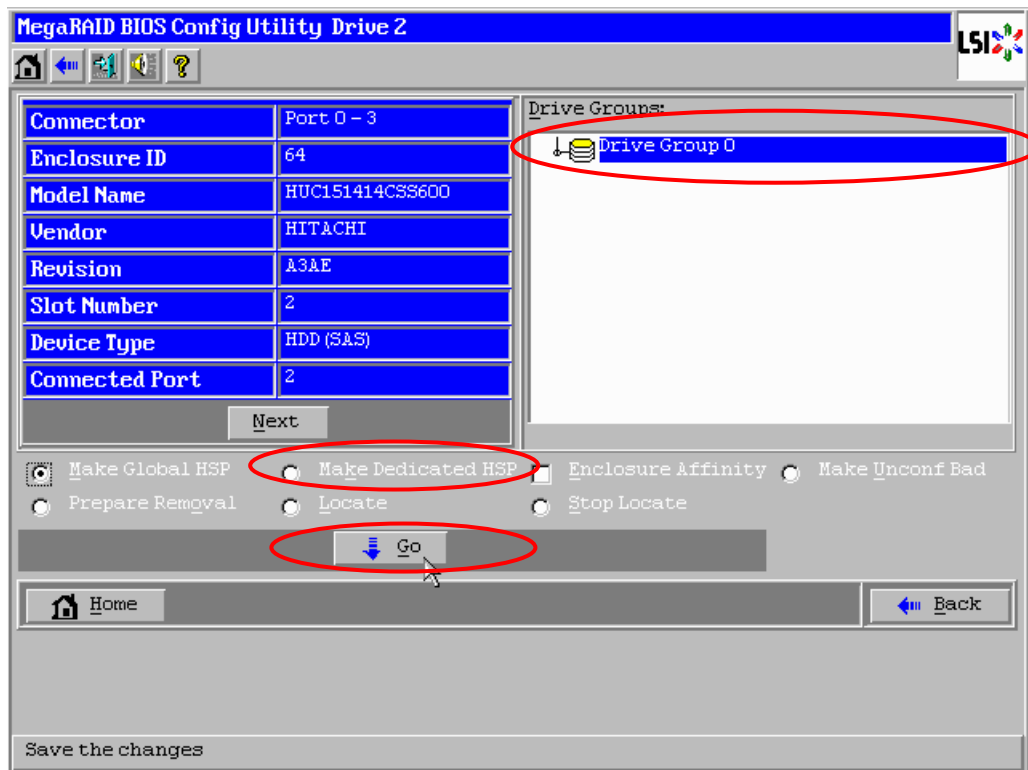
[Global HSP の場合]

”Make Global HSP”をチェックして画面中央下の[Go]をクリックします。

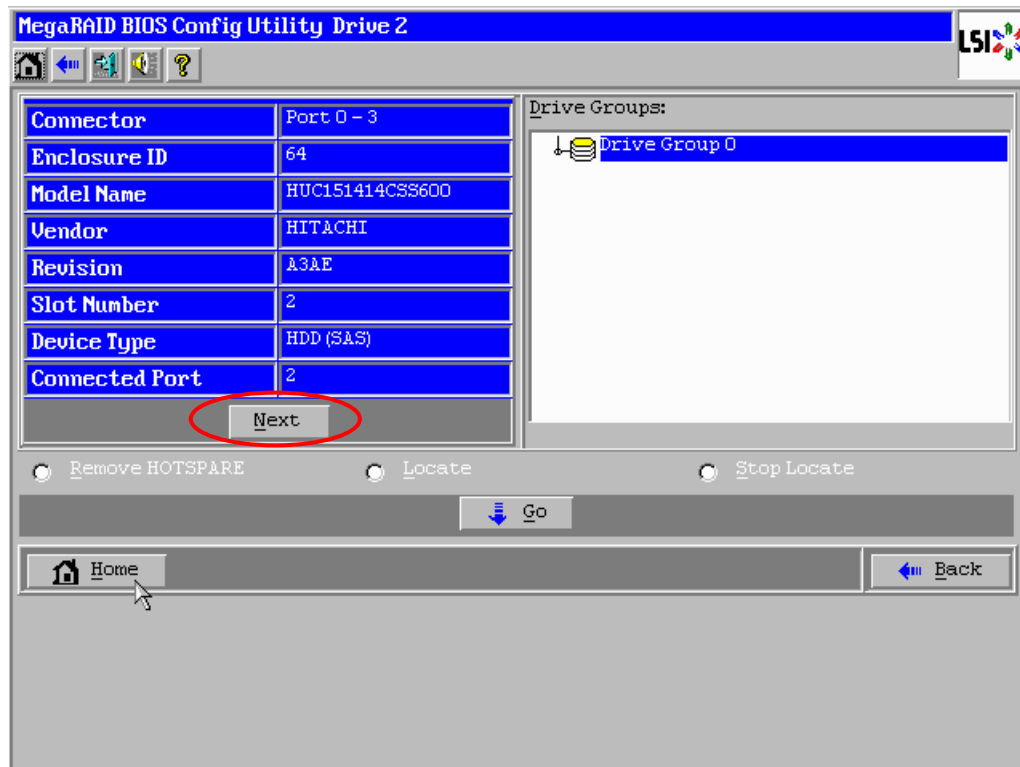


[Dedicated HSP の場合]

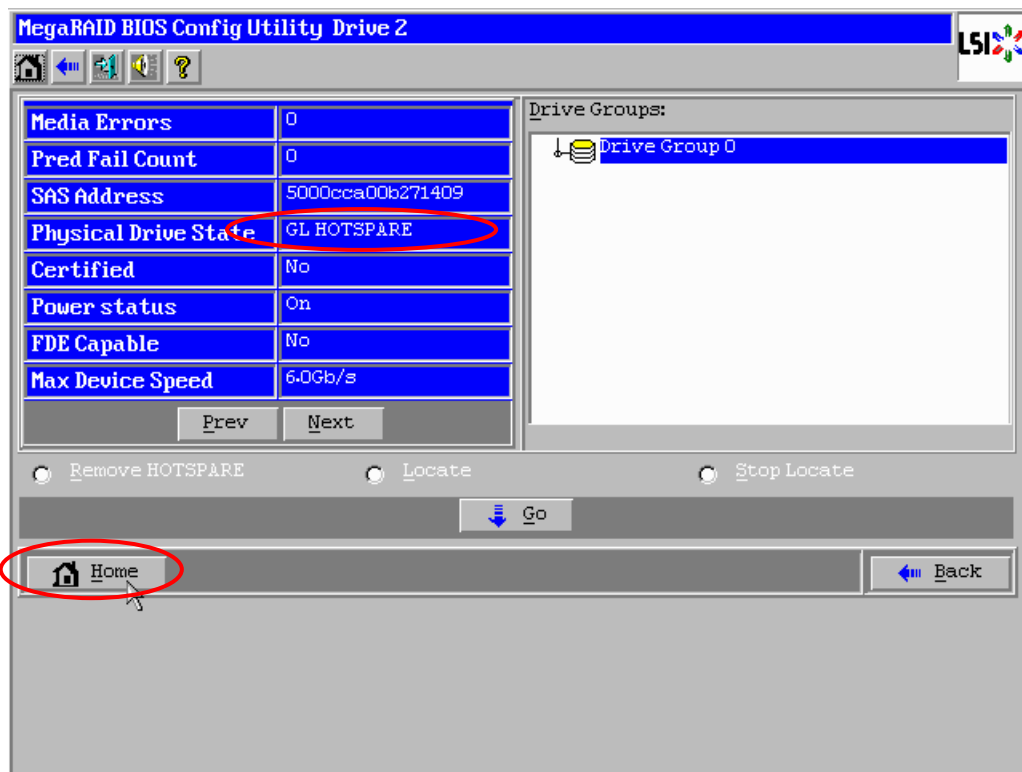
ホットスペアを設定したい DG を選択して”Make Dedicated HSP”をチェックし、画面中央下の [Go] をクリックします。



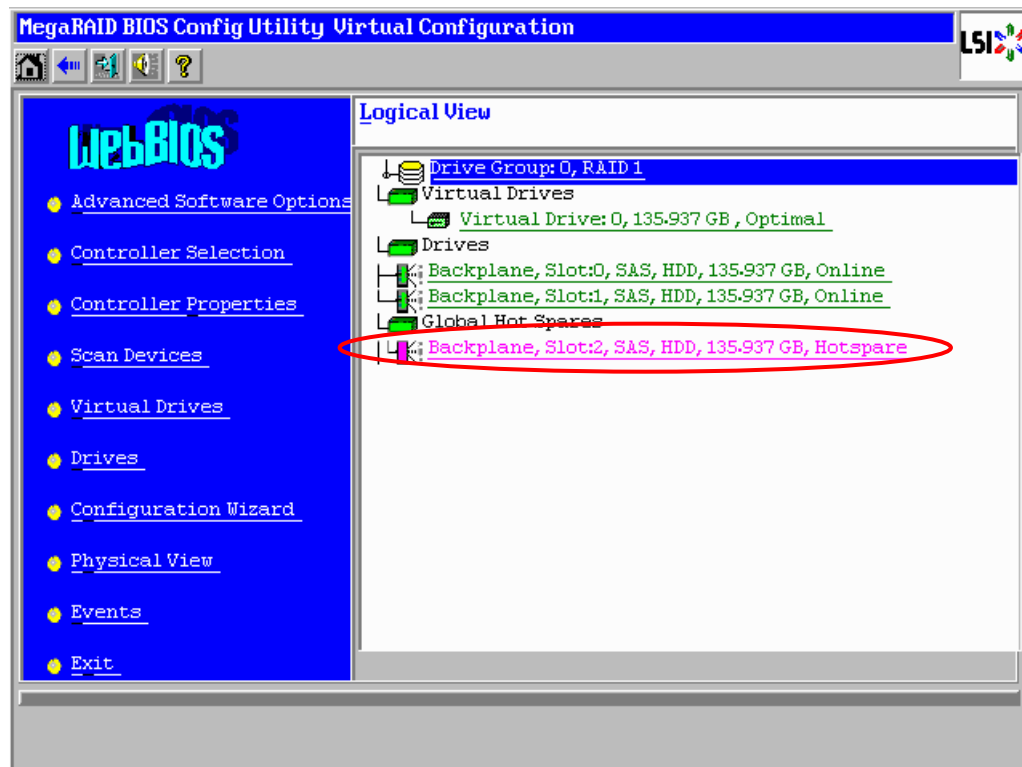
⑤ [Next]をクリックして物理デバイスのプロパティ画面の次頁を表示します。



- ⑥ 新しく接続した物理デバイスのステータスが“GL HOTSPARE”、あるいは“DED HOTSPARE”になります。画面左下の[Home]をクリックして WebBIOS のトップ画面に戻ってください。



- ⑦ WebBIOS のトップ画面で Hotspare が設定されていることを確認します。



4-4. Locate 機能

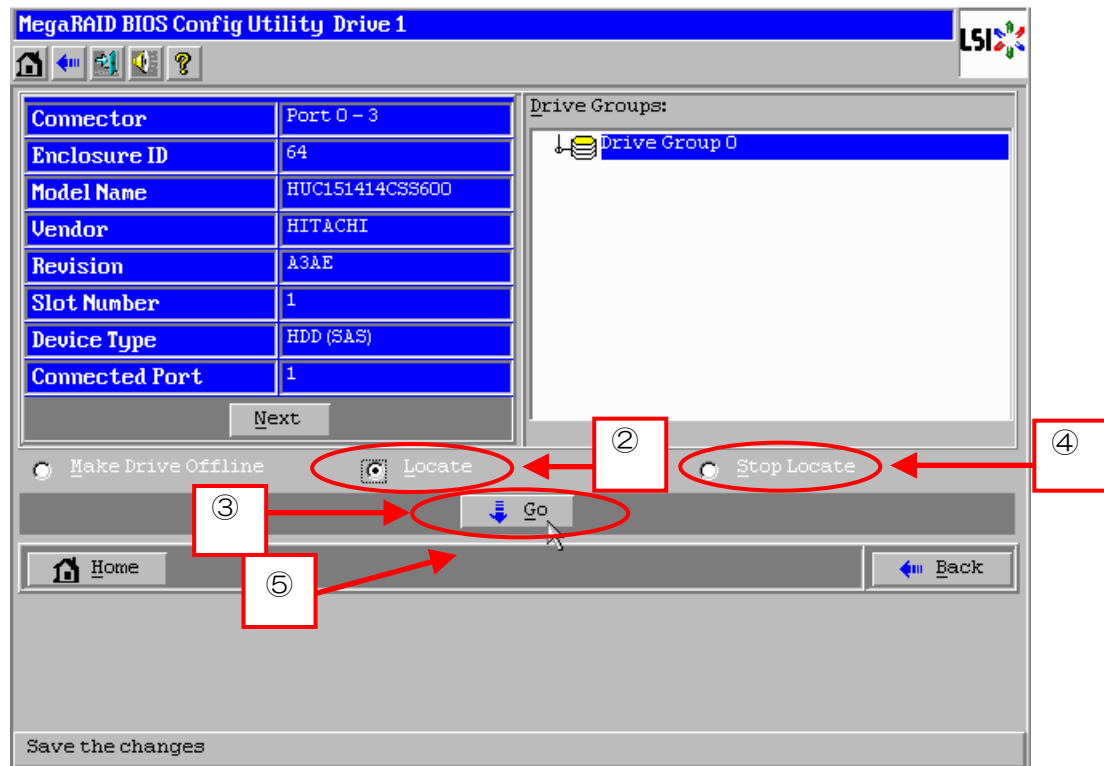
Locate は物理デバイスの LED を点灯、または点滅させ、スロット位置を確認する機能です。VD またはホットスワップの追加、物理デバイスの予防交換などを行う場合は事前に物理デバイスのスロット位置を確認することをお奨めします。

Locate の実行手順

- ① WebBIOS のトップ画面右側で確認する物理デバイスをクリックしてください。
- ② 物理デバイスのプロパティが表示されます。Locate のチェック欄をクリックしてください。
- ③ [Go]をクリックしてください。物理デバイスの LED が点灯、または点滅しますので、スロット位置を確認してください。

スロット位置を確認後、物理デバイスの LED を消灯する場合は以下の手順を実施します。

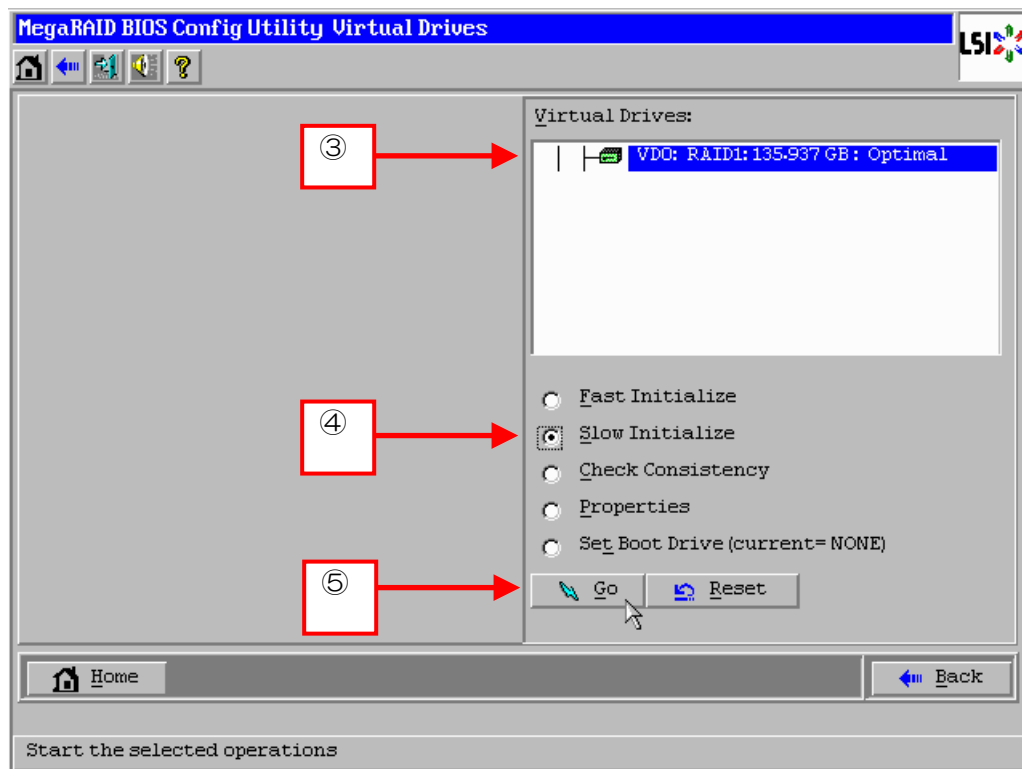
- ④ "Stop Locate"を選択します。
- ⑤ [Go]をクリックします。物理デバイスの LED が消灯します。



4-5. Slow Initialize 機能

Slow Initialize は VD のデータ領域の全セクタに 0 ライトし、初期化する機能です。WebBIOS で実施する場合は以下の手順で実施してください。

- ① WebBIOS を起動します。
- ② WebBIOS トップ画面より、[Virtual Drives]をクリックします。
- ③ Virtual Drives 画面右上より、Slow Initialize を実行する VD を選択します。
- ④ Virtual Drives 画面右下より、Slow Initialize のチェック欄をクリックします。
- ⑤ チェックマークを確認した後、[Go]をクリックします。



- WebBIOSのConfiguration WizardでVDを作成するときにFast Initializeを実行した場合は、パーティション情報が書かれている先頭セクタのみをクリアします。
- Slow Initializeは完了するまで時間がかかります。
- Slow Initializeを実行するとデータが全て失われますので、対象VDの選択は十分に注意してください。

4-6. WebBIOS と Universal RAID Utility

OS 起動後、RAID システムのコンフィグレーション、および、管理、監視を行うユーティリティとして Universal RAID Utility があります。WebBIOS と Universal RAID Utility を併用する上で留意すべき点について説明します。

用語の差分

WebBIOS と Universal RAID Utility は、使用する用語が異なります。以下の表をもとに読み替えてください。

WebBIOS の用語	Universal RAID Utility の用語	
	RAID ビューア	raidcmd コマンド
Adapter	RAID コントローラ	RAID Controller
Virtual Drive	論理ドライブ	Logical Drive
Drive Group	ディスクアレイ	Disk Array
Drive	物理デバイス	Physical Device



ヒント

raidcmd は Universal RAID Utility が提供するコマンドです。詳細については「Universal RAID Utility ユーザーズガイド」を参照してください。

バックグラウンドタスクの優先度(Rate)の設定値の差分

WebBIOS では、バックグラウンドタスク(リビルド、パトロールリード、整合性チェック)の優先度を数値で設定、表示しますが、Universal RAID Utility は、高、中、低の 3 つのレベルで設定、表示します。以下の対応表を参照してください。優先度とは RAID コントローラが処理中のプロセスに対してバックグラウンドタスクの処理が占める割合を示したものです。

WebBIOS の設定値と Universal RAID Utility で表示される値の対応

項目	WebBIOS の設定値(%)	Universal RAID Utility で表示される値
リビルド優先度	80～100	高(High)
	31～79	中(Middle)
	0-30	低(Low)
パトロールリード優先度	80～100	高(High)
	31～79	中(Middle)
	0-30	低(Low)
整合性チェック優先度	80～100	高(High)
	31～79	中(Middle)
	0-30	低(Low)

Universal RAID Utility の設定値と WebBIOS で表示される値の対応表

項目	Universal RAID Utility の設定値	WebBIOS で表示される値 (%)
リビルド優先度	高(High)	90
	中(Middle)	50
	低(Low)	10
パトロールリード優先度	高(High)	90
	中(Middle)	50
	低(Low)	10
整合性チェック優先度	高(High)	90
	中(Middle)	50
	低(Low)	10



ヒント

Universal RAID Utility は、初期化処理(Slow Initialize)の優先度が設定できませんが、本 RAID コントローラでは未サポートのため設定できません。

第 5 章 運用・保守

1. 保守サービス

保守サービスは、弊社の保守サービス会社および弊社が指定した保守サービス会社によって実施されます。お客さまが保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。

2. 予防保守

2-1. データのバックアップ

万が一の場合に備え、定期的に物理デバイス内のデータをバックアップすることをお勧めします。データのバックアップについては、本体装置のユーザズガイドを参照してください。

3. 保守機能

本 RAID コントローラで以下の保守機能をサポートしています。

- Configuration on Disk(COD)機能
- リビルド機能

3-1. Configuration on Disk(COD)機能

Configuration on Disk (COD)機能は、コンフィグレーション情報を物理デバイス内部に記録する機能です。この機能により、RAID コントローラが万一故障したときに RAID コントローラを交換しても、コンフィグレーション情報が失われることはありません。RAID コントローラ交換後、コンフィグレーション情報を物理デバイスから読み込み、正常に動作させることができます。



チェック

本RAIDコントローラはコンフィグレーション情報をRAIDコントローラ内に保存しません。コンフィグレーション情報は、すべて物理デバイス内に記録/保存されます。

3-2. リビルド機能

リビルド機能は、物理デバイスに故障が発生した場合に、故障した物理デバイスのデータを復旧させる機能です。『RAID1』や『RAID10』といった、冗長性のある論理ドライブに対して実行することができます。詳しくは「3 章(1. リビルド)」を参照してください。

4. 本 RAID コントローラの交換

本装置を交換する際は以下の手順に従ってください。



チェック

本RAIDコントローラ交換時の本体装置の取り扱いについては、本体装置付属のユーザズガイドを参照してください。

⚠ 注意



高温注意

本体装置の電源をOFFにした直後は、内蔵型の物理デバイスなどをはじめ装置内の部品が高温になっています。十分に冷めたことを確認してから取り付け/取り外しを行ってください。

本体装置の電源を OFF にして、電源コードをコンセントから抜きます。電源が ON になっている場合は、OS のシャットダウン処理を行った後、本体装置の電源を OFF にして電源コードをコンセントから抜いてください。

1. 本体装置のサイドカバーや部品等を取り外します。
2. 本 RAID コントローラに接続されているケーブル(SAS ケーブル)を取り外します。



重要

SAS ケーブルを取り外す前に、本RAIDコントローラのSASコネクタとSAS ケーブルのポート番号を確認し、接続構成を必ず控えてください。

3. 本 RAID コントローラを固定しているネジを外し、本体装置から取り外します。



重要

取り外したPCIスロット（PCI Express）の位置を必ず控えてください。

4. 交換用のボードを同じ PCI スロット（PCI Express）に実装し、ネジで固定します。
5. 手順 3 にて取り外したケーブルをすべて接続します。あらかじめ控えた接続構成に従い、ケーブルの接続作業を行ってください。
6. 手順 2 で取り外した本体装置のサイドカバーや部品等を取り付けます。
7. 電源コードをコンセントに接続し、本体装置の電源を ON します。本体装置が正常に起動する事を確認してください。

5. 障害時の対処

5-1. エラーメッセージ

POST 中に RAID コントローラが何らかの異常を検出した場合、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。以下のエラーメッセージ一覧でメッセージの意味、対処方法を確認してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	対処方法
Foreign configuration(s) found on adapter Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.	RAID コントローラ上にないコンフィグレーションを検出した。	C キーを押してユーティリティを起動し、インポートするか、クリアしてください。
Previous configuration cleared or missing Importing configuration created on MM/DD hh:mm Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.	コンフィグレーションがクリアされたか見つからないため、MM/DD hh:mmのコンフィグレーションをインポートした。	保守サービス会社に連絡してください。
An enclosure was found that contains both SAS and SATA drives, but this controller does not allow mixed drive types in a single enclosure. Please correct the problem then restart your system. Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.	同一エンクロージャにSASドライブとSATAドライブが混在されている。	RAIDコントローラの故障の可能性があります。保守サービス会社に連絡しRAIDコントローラを交換してください。
SAS drives were detected, but this controller does not support SAS drives. Please remove the SAS drives then restart your system. Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.	SASドライブをサポートしていない。	RAIDコントローラの故障の可能性があります。保守サービス会社に連絡しRAIDコントローラを交換してください。
SATA drives were detected, but this controller does not support SATA drives. Please remove the SATA drives then restart your system. Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.	SATAドライブをサポートしていない。	RAIDコントローラの故障の可能性があります。保守サービス会社に連絡しRAIDコントローラを交換してください。
Invalid SAS topology detected. Please check your cable configurations, repair the problem, and restart your system.	SASインタフェース上で不正な通信処理が検出された。	ケーブルの接続状態を確認してください。それでも改善しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Invalid SAS Address present in MFC data. Please program valid SAS Address, and restart your system.	不正なSASアドレスを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意味	対処方法
<p>Some configured disks have been removed from your system, or are no longer accessible. Please check your cables and also ensure all disks are present.</p> <p>Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.</p>	<p>接続されていたいくつかの物理デバイス、あるいは全ての物理デバイスが認識できない。</p>	<p>ケーブル、物理デバイスの接続状態を確認してください。それでも改善しない場合は保守サービス会社に連絡してください。</p>
<p>The following VD's have missing disks: xx</p> <p>If you proceed (or load the configuration utility), these VD's will be marked OFFLINE and will be inaccessible. Please check your cables and ensure all disks are present.</p> <p>Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.</p>		
<p>The following VD's are missing: xx</p> <p>If you proceed (or load the configuration utility), these VD's will be removed from your configuration. If you wish to use them at a later time, they will have to be imported. If you believe these VD's should be present, please power off your system and check your cables to ensure all disks are present.</p> <p>Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.</p>		
<p>All of the disks from your previous configuration are gone. If this is an unexpected message, then please power off your system and check your cables to ensure all disks are present.</p> <p>Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.</p>		
<p>RAID Adapter FW Failed Validation!!! Adapter needs to be reflashed. Press any key to continue.</p>	<p>RAIDコントローラ上のファームウェアが異常です。</p>	<p>保守サービス会社に連絡しRAIDコントローラを交換してください。</p>
<p>Entering the configuration utility in this state will result in drive configuration changes. Press 'Y' to continue loading the configuration utility or please power off your system and check your cables to ensure all disks are present and reboot.</p>	<p>コンフィグレーションユーティリティ(WebBIOS)を起動すると、RAIDコントローラ上の構成が変更される。</p>	<p>物理デバイスの接続状態を確認してください。それでも改善しない場合は、保守サービス会社に連絡し、RAIDコントローラを交換してください。</p>
<p>A discovery error has occurred. Power-cycle the system and all the enclosures attached to this system.</p>	<p>物理デバイスのディスカバリ処理中に異常が発生した。</p>	<p>ケーブル、物理デバイスの接続状態を確認してください。それでも改善しない場合は保守サービス会社に連絡してください。</p>

5-2. トラブルシューティング

本 RAID コントローラを使用した本体装置がうまく動作しないときや、ユーティリティが正しく機能しないときは次の点について確認してください。また、該当する項目があったときは、処理方法に従った操作をしてください。

(1) OS をインストールできない

- VDを作成しましたか？
→ WebBIOS を使って VD を作成してください。

(2) OS を起動できない

- 本RAIDコントローラがまっすぐ奥までPCIスロットに実装されていますか？
→ 正しく実装してください。
- 本RAIDコントローラを実装制限があるPCIスロットに実装していませんか？
→ 本体装置の実装制限を確認後、正しいスロットに実装してください。
上記の処置を実施しても認識されない場合は、RAID コントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。
- 物理デバイスが奥まで、しっかり実装されていますか？
→ 正しく実装してください。
- SAS ケーブルが正しく接続されていますか？(本RAIDコントローラとの接続、バックプレーンとの接続)
→ 正しく接続してください。
上記の処置を実施しても認識されない場合は、物理デバイスの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

(3) 物理デバイスが故障した

- 契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

(4) リビルドが実行できない

- リビルドする物理デバイスの容量が少なくありませんか？
→ 故障した物理デバイスと同じか、もしくは大きい容量の物理デバイスを使用してください。
- VDのRAIDレベルが、RAID0ではありませんか？
→ RAID0 には冗長性がないためリビルドができません。故障した物理デバイスを交換して、再度 VD を作成してください。

(5) 整合性チェックが実行できない

- VDが「Degraded」になっていませんか？
→ 故障している物理デバイスを交換し、リビルドを実施してください。
- VDのRAIDレベルが、RAID0ではありませんか？
→ RAID0 は冗長性がないため整合性チェックができません。

(6) イベント ID129 について

以下のメッセージがWindowsのイベントログに登録される場合があります。

イベントソース	msas2k3
イベント ID	129
種類	警告
説明	イベントID(129) (ソース:msas2k3内) に関する説明が見つかりませんでした。 (以降省略)

→ 本メッセージがログに登録されても、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。

(7) アクセス LED が点滅する

□ 使用していないのに、頻繁にアクセスLEDが点滅する。

→ パトリールリードが動作した場合、特に使用していない状態でもアクセスLEDが点滅します。なお、SATA の物理デバイスを使用している場合、LED が点灯状態となる場合があります。

N8103-171/G171
RAID コントローラ
ユーザーズガイド

2013 年 7 月 初版

日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL(03)3454-1111 (大代表)

© NEC Corporation 2013
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

